



目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
 - 2.1. 本書の目的
 - 2.2. 前提条件
 - 2.3. 対象読者
 - 2.4. 用語解説
- 3. セットアップをはじめる前に
 - 3.1. セットアップの概要
 - 3.2. セットアップの流れ
- 4. セットアップ
 - 4.1. JDK
 - 4.2. Web Application Server
 - 4.3. データベース
 - 4.4. JDBCドライバ
 - 4.5. Web Server
 - 4.6. WARファイルの作成
 - 4.7. Apache Cassandra
 - 4.8. Apache Solr
 - 4.9. デプロイ
 - 4.10. テナント環境セットアップ
- 5. アンインストール
 - 5.1. アプリケーションの削除
 - 5.2. Storage領域の削除
 - 5.3. ミドルウェア製品の削除

次は、「[はじめに](#)」へ進みます。

改訂情報

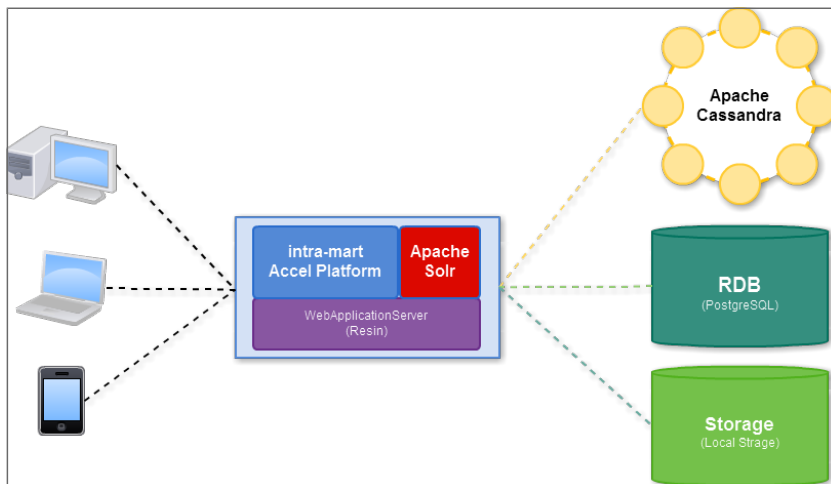
変更年月日	変更内容
2014-01-01	初版
2014-04-01	第2版 下記を追加・変更しました。 目次構成を改善しました。
2014-08-01	第3版 下記を追加・変更しました。 「テナント環境セットアップ」の各ウィザードページに説明を追記 「Apache Solr」に「Solr管理者ガイド」へのリンクを追加
2014-12-01	第4版 下記を追加・変更しました。 「全文検索機能 (IM-ContentsSearch) の設定」の設定方法を追加
2015-04-01	第5版 下記を追加・変更しました。 「JDBC ドライバ」内の PostgreSQL 9.3 から PostgreSQL 9.4 に変更
2015-09-30	第6版 下記を追加・変更しました。 「Web Application Server」に、Resin の jvm_args の指定内容を修正
2016-04-01	第7版 下記を追加・変更しました。 - 目次構成を改善しました。 「テナント環境セットアップ」にパスワード保存方式の説明を追記
2016-09-01	第8版 下記を追加・変更しました。 「JDK」の説明を修正 「Web Application Server」の説明を修正 「Web Application Server」に Resin の設定に関するコラムを追加 「データベース」に PostgreSQL のダウンロードに関するコラムを追加 「Apache Cassandra」の説明を修正 「Apache Solr」の説明を修正 「Apache Solr」に Resin の起動に関するコラムを追加 「デプロイ」の説明を修正 「テナント環境セットアップ」の説明を修正 「テナント環境セットアップ」にセットアップの失敗に関するコラムを追加
2017-04-01	第9版 下記を追加・変更しました。 「プロジェクトの作成とモジュールの選択」の説明を修正 「Web Application Server」の説明を修正 「Apache Solr」のセットアップツールの取得方法を修正
2017-12-01	第10版 下記を変更しました。 「JDBC ドライバ」内のバージョンを PostgreSQL 9.4 から PostgreSQL 9.6 に変更
2018-04-01	第11版 下記を追加・変更しました。 「セットアップの概要」に Web Server を追加 「セットアップの流れ」に Web Server を追加 「JDBC ドライバ」内のバージョンを PostgreSQL 9.6 から PostgreSQL 10 に変更 「JDBC ドライバ」でJDBCの入手先に関する記載を変更 - Resinのインストール先の記述を変更 「JDBC ドライバ」のJDBC 4に限定している記載を変更 「Web Server」を追加 「静的ファイルの配置」の記述を「デプロイ」に変更

変更年月日	変更内容
2018-12-01	第12版 下記を追加・変更しました。 「JDK」の説明を、リリースノートに記載されているシステム要件を満たす JDK を入手するよう変更
2020-08-01	第13版 下記を追加・変更しました。 「はじめに」のTRY版の利用に関する記述を削除 「セットアップの流れ」の Description に記載されている JDK のリンク先を修正 「プロジェクトの作成とモジュールの選択」のTRY版の利用および製品版メディアイメージに関する記述を削除 「Web Application Server」の製品版メディアイメージに関する記述を削除および修正
2021-04-01	第14版 下記を追加・変更しました。 「デプロイ」のデプロイ手順について WAR ファイルを直接配置してデプロイする手順に変更 「アンインストール」の手順について WAR ファイルを直接削除する手順に変更
2023-04-01	第15版 下記を追加・変更しました。 「Apache Solr」の手順を修正 「プロジェクトの作成とモジュールの選択」のプロジェクトの新規作成のコラムに、ライセンス種別ごとの記載を追加
2023-10-01	第16版 下記を追加・変更しました。 「Web Application Server」のResin の設定の注意書きに、Java 8、Java 11 を利用する場合の JVM 引数に関する説明を追加 「JDBC ドライバ」のインストールについて、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」の説明に統一 「データベース」で使用するpgAdminをⅢから4に変更 「Apache Cassandra」に Java11 対応のcassandraに関する説明を追記 「データベース」の PostgreSQL のダウンロードを「システム要件」に準拠するように修正
2023-10-31	第17版 下記を追加・変更しました。 「プロジェクトの作成とモジュールの選択」のプロジェクトの新規作成のコラムに、Advance Edition に関する記載を追加
2024-08-30	第18版 下記を追加・変更しました。 「プロジェクトの作成とモジュールの選択」のプロジェクトの新規作成のコラムに、ASEAN地域向けカスタマーサクセスライセンスに関する記載を追加
2024-10-01	第19版 下記を追加・変更しました。 「Web Application Server」の「Resin の設定」のヒープの最大サイズに関する注意事項を変更

はじめに

本書の目的

本書では 簡易的に intra-mart Accel Platform をセットアップする手順について説明します。
はじめて intra-mart Accel Platform をセットアップする方向けの内容です。



コラム

- ・セットアップする intra-mart Accel Platform はスタンドアローン構成（最小構成）です。

前提条件

- リリースノートに記載されているシステム要件を満たしている必要があります。
詳細は「[リリースノート](#)」-「[システム要件](#)」を参照してください。
- 本書でセットアップする環境とブラウザでアクセスする環境など、すべて同一筐体（ローカル環境）で行います。
- Storageフォルダは、Resin を起動するドライブ上に作成されます。
Resin を「Cドライブ」上で起動した場合、Storageフォルダは「C:/tmp/storage」フォルダに作成されます。

対象読者

以下の利用者を対象としています。

- はじめて intra-mart Accel Platform をセットアップする方

コラム

詳細なセットアップ内容については「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」を参照してください。

用語解説

Resin をインストールしたディレクトリを %RESIN_HOME% と略します。
Storage として使用するディレクトリを %STORAGE_PATH% と略します。
PublicStorage として使用するディレクトリを %PUBLIC_STORAGE_PATH% と略します。
Apache HTTP Server をインストールしたディレクトリを %APACHE_HOME% と略します。
Webサーバ利用時の静的コンテンツを配置するディレクトリを %WEB_PATH% と略します。

セットアップの概要

- セットアップの概要は次の通りです。
 1. ミドルウェアをセットアップします。
セットアップの対象は、JDK、Resin、データベース、Web Server、Apache Cassandra、Apache Solr です。
 2. IM-Juggling を使用してWARファイルを作成します。



コラム

WARファイルとは？

JavaEEで定義されている Web Application Archive ファイルで、intra-mart Accel Platform の動作に必要な各種ファイルが格納されています。

intra-mart Accel Platform 用のWARファイルの作成は IM-Juggling にて行います。

IM-Juggling にて作成されたWARファイルを Resin などの Web Application Server にデプロイ（配置）します。
Web Application Server を起動することにより、WARファイルに格納された intra-mart Accel Platform 自体や対応した各種アプリケーションが起動され、利用できます。

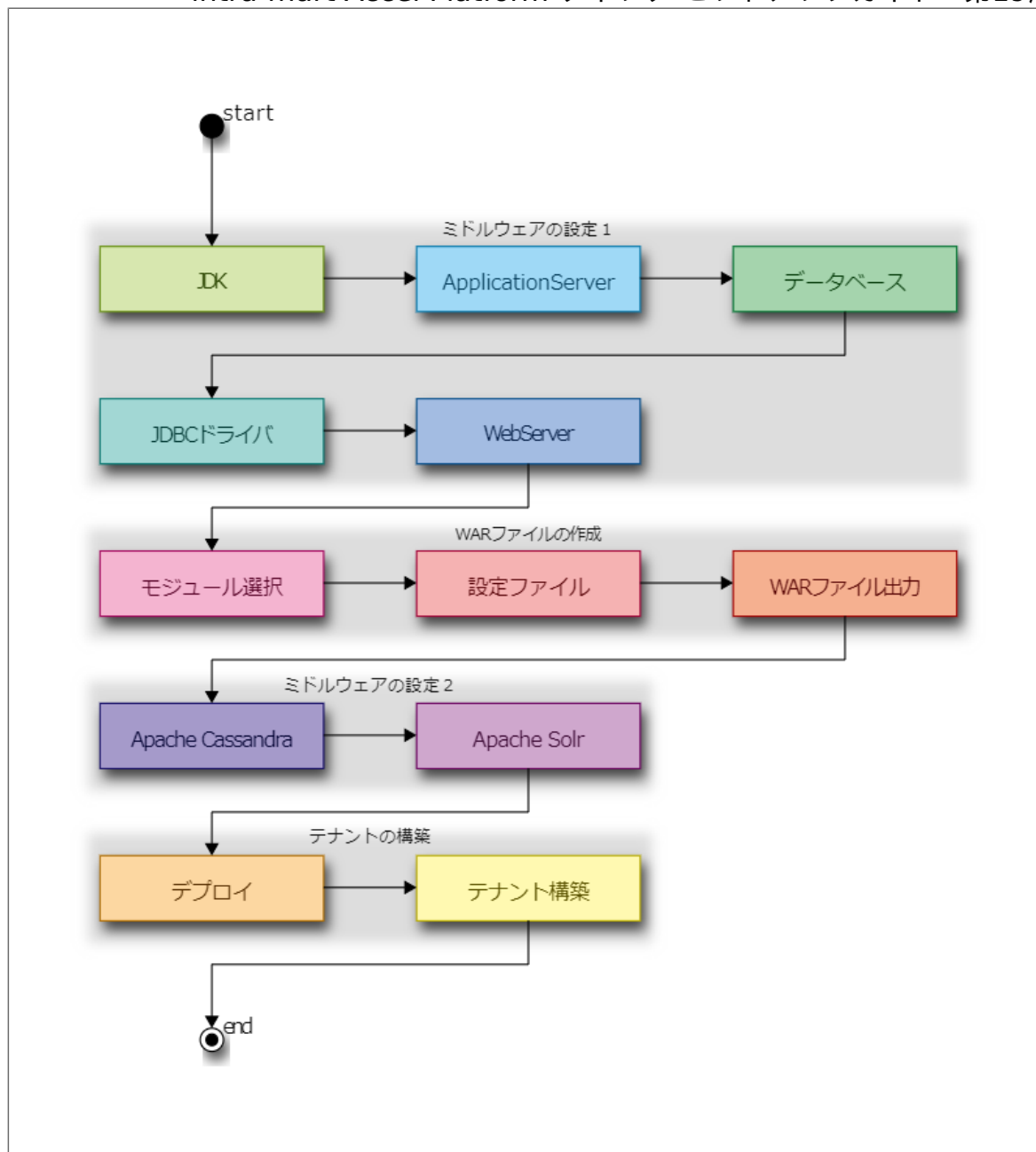
WARファイルは intra-mart Accel Platform 製品自体の最小単位となるため、ライセンスはWARファイル単位でカウントします。

3. 作成したWARファイルを、Web Application Server（Resin）上にデプロイ（展開）します。
4. 作成した静的ファイルを、Web Server 上に配置します。
5. ブラウザからアクセスし、テナント環境セットアップ（データベースへのデータ投入など）を実行します。

次は、「[セットアップの流れ](#)」へ進みます。

セットアップの流れ

セットアップの手順は次のフローチャートの通りです。
各ステップごとのセットアップ手順は一覧のリンク先を参照してください。



Name	Description
start	
JDK	JDK
データベース	データベース
JDBCドライバ	JDBCドライバ
ApplicationServer	Web Application Server
WebServer	Web Server
モジュール選択	WARファイルの作成 - プロジェクトの作成とモジュールの選択
設定ファイル	WARファイルの作成 - 全文検索機能 (IM-ContentsSearch) の設定
WARファイル出力	WARファイルの作成 - WARファイルの出力
Apache Cassandra	Apache Cassandra
Apache Solr	Apache Solr
デプロイ	デプロイ
テナント構築	テナント環境セットアップ
end	

intra-mart Accel Platform のセットアップに必要な以下のインストールおよび設定を行います。

JDK

intra-mart Accel Platform を利用するには、JDK が必要です。

項目

- JDK のダウンロード
- Oracle Java (JDK) のインストール
- 環境変数の設定
- 設定の確認

JDK のダウンロード

Resin の場合、リリースノートに記載されているシステム要件を満たす JDK を入手し、セットアップを行います。

詳細は「リリースノート」-「システム要件」を参照してください。

Resin 以外の Web Application Server の場合、各製品のドキュメントを参照してください。

以下では例として、Oracle Java (JDK) をダウンロードした場合の手順を記載します。

Oracle Java (JDK) を入手する場合は下記のURLを参考に、環境に適した JDK をダウンロードしてください。

<https://www.oracle.com/java/technologies/downloads/> (English)

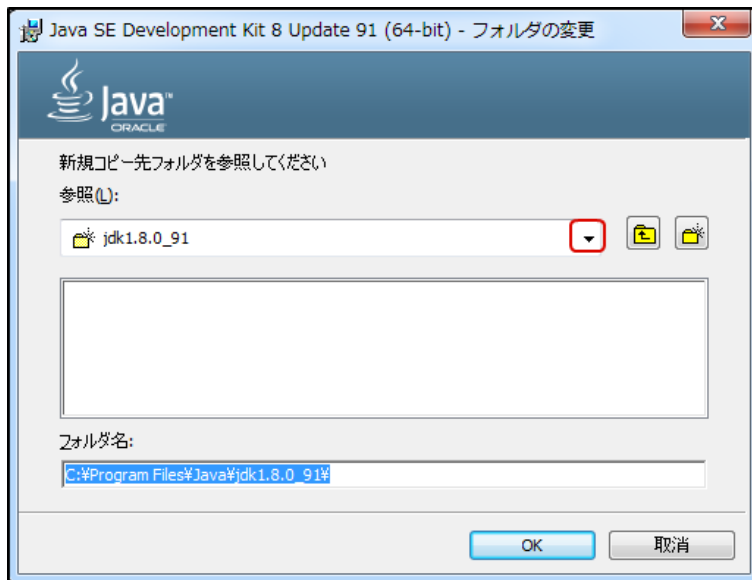
実際のインストール時は、上述したリリースノートに記載されているシステム要件を満たすものをダウンロードしてください。

Oracle Java (JDK) のインストール

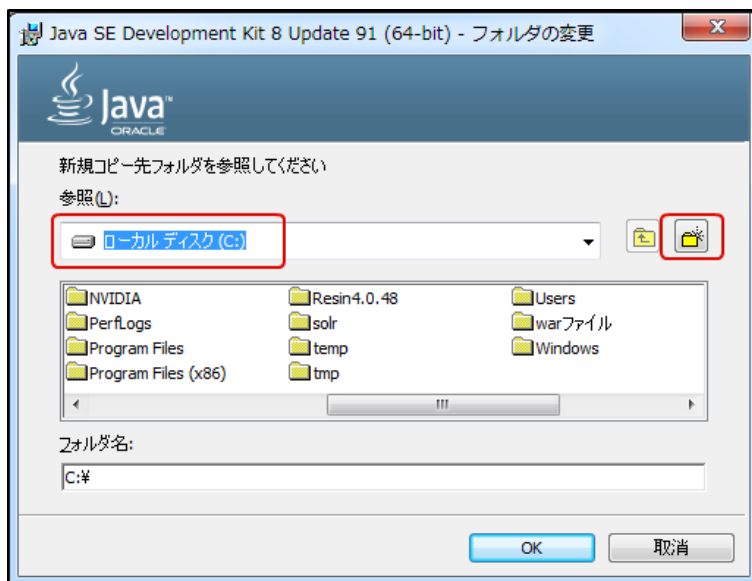
1. ダウンロードしたexeファイルをダブルクリックします。
2. 以下の画面が表示されるまで「次へ」をクリックします。
「変更」をクリックします。



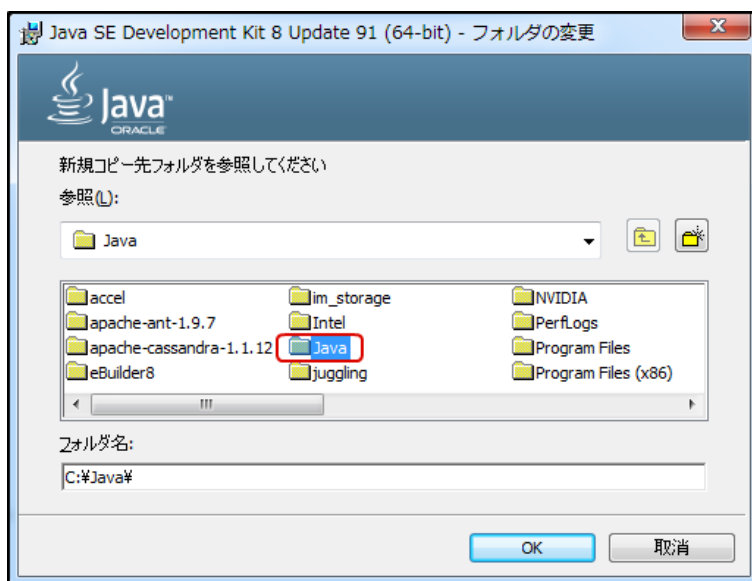
3. 「ローカルディスク」を選択します。



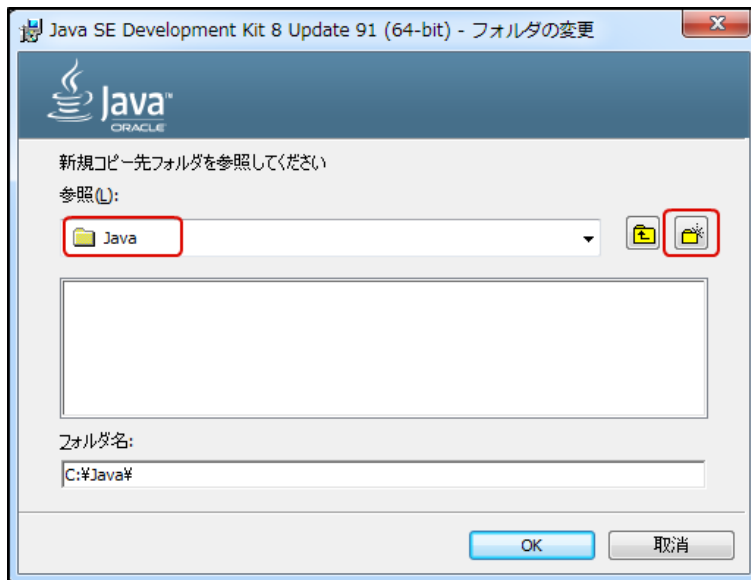
4. 「ローカルディスク」を選択していることを確認し、「新しいフォルダーの作成」アイコンをクリックします。



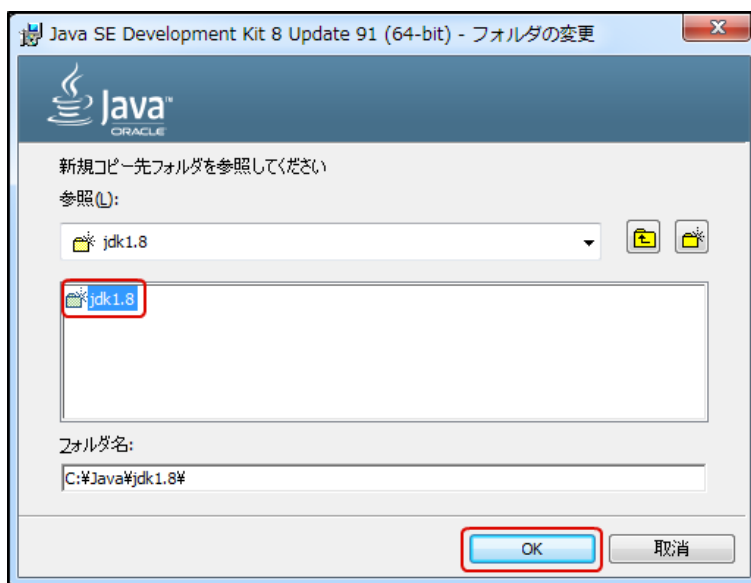
5. 新しいフォルダー名に「Java」と入力します。



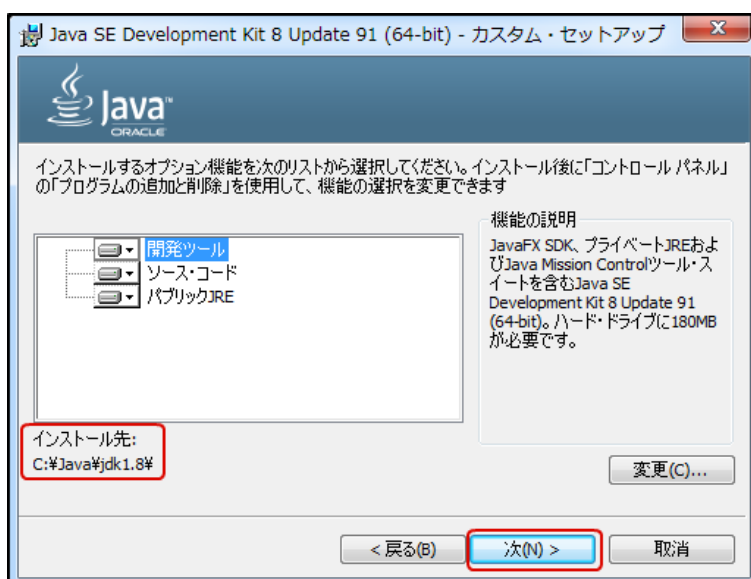
6. 「Java」が選択されていることを確認し、もう一度「新しいフォルダーの作成」アイコンをクリックします。



7. 「jdk1.8」と入力し、「OK」をクリックします。



8. インストール先が作成したフォルダのパスに変更されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



9. 「次へ」をクリックします。



10. 「閉じる」をクリックします。JDK のインストールは完了です。



環境変数の設定

Windows環境変数にJDK をインストールしたホームディレクトリを追加します。
WindowsOSのマニュアルにしたがい、以下を設定します。

変数	値
PATH	JDK をインストールしたホームディレクトリ内の「bin」ディレクトリ
JAVA_HOME	JDK をインストールしたホームディレクトリ

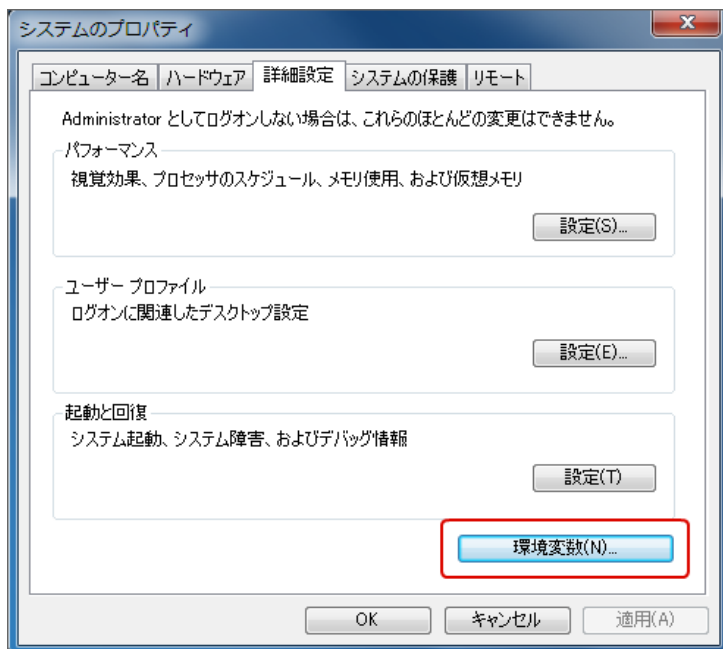
1. 「コントロールパネル」→「システムとセキュリティ」→「システム」→「システムの詳細設定」の順に進み、システムのプロパティを表示します。



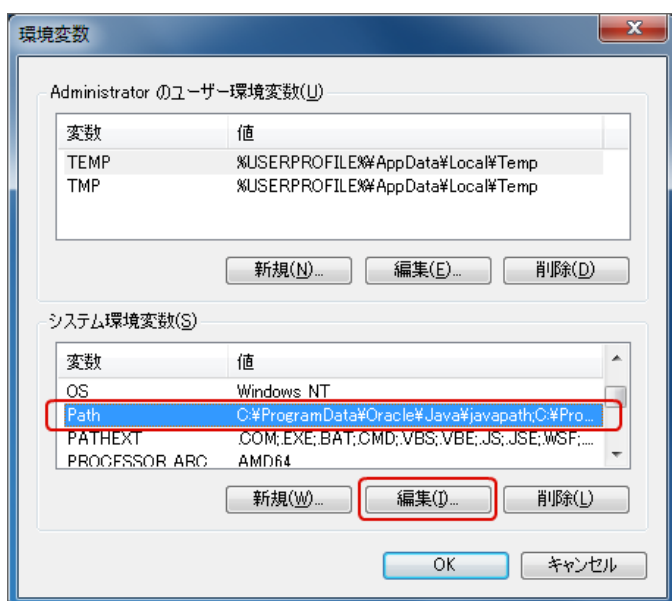
注意

OSにより表示方法は異なります。本書ではWindows 7での表示方法を記載しています。

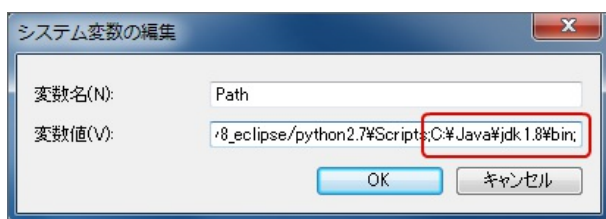
2. 「環境変数」をクリックします。



3. 「システム環境変数」の変数「Path」を選択し、「編集」をクリックします。



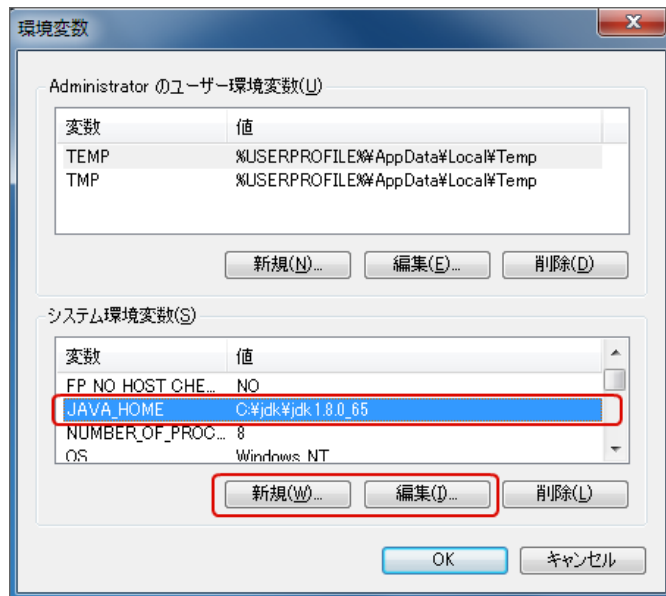
4. 「変数値」の最後に JDK をインストールしたホームディレクトリ内の「bin」ディレクトリパスを入力し、「OK」をクリックします。



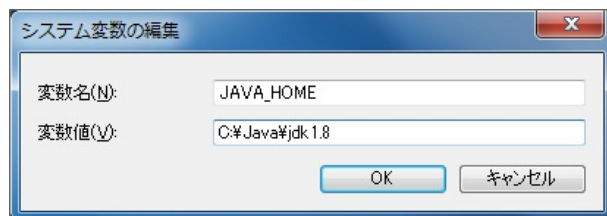
注意

既に設定されている値の変更や削除をしないように注意してください。
変更や削除をしてしまった場合は、「キャンセル」をクリックし、もう一度やり直してください。
変数値の最後に「;」セミコロンがない場合は、「;」で既存の値を区切ってから入力してください。

5. 「システム環境変数」の変数「JAVA_HOME」を選択し、「編集」をクリックします。
「JAVA_HOME」がない場合は、「新規」をクリックします。



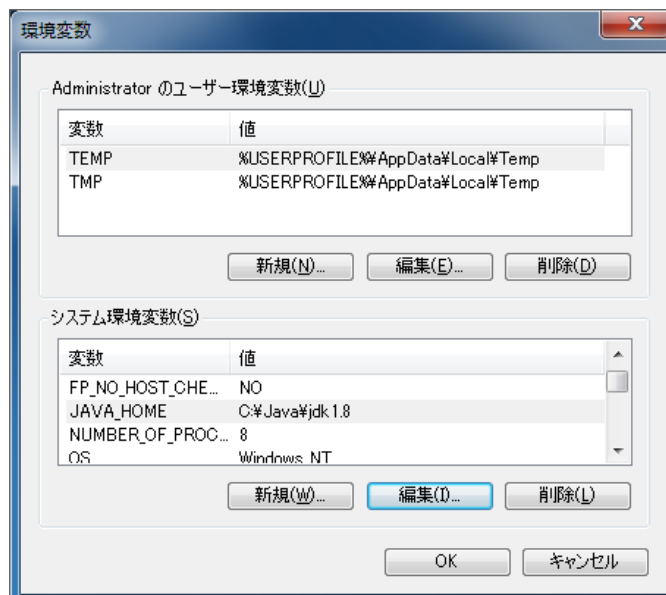
6. 新規の場合は、「変数名」に「JAVA_HOME」と入力します。
「変数値」に JDK をインストールしたホームディレクトリパスを入力し、「OK」をクリックします。



注意

JAVA_HOMEの値には「;」セミコロンをつけずに設定してください。
設定値の最後に「;」をつけると、Apache Cassandra が正常に起動しない場合があります。

7. 「OK」をクリックします。環境変数の設定は完了です。



設定の確認

1. コマンドプロンプトを起動します。



コラム

コマンドプロンプトの起動方法

- Windowsマークまたはスタートをクリック
- プログラムとファイルの検索に「cmd」と入力し、エンターキーを押します。

コマンドプロンプトの終了方法

- 「exit」と入力し、エンターキーを押します。

2. 「set path」と入力しエンターキーを押します。

- 環境変数設定で入力したパスが表示されていれば、「Path」の設定は完了しています。

```

C:\Windows\system32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.1.7601]
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Administrator>set path
Path=C:\ProgramData\Oracle\Java\javapath;C:\Program Files (x86)\Intel\iCLS Client\;C:\Program Files\Intel\iCLS Client\;C:\Windows\system32;C:\Windows;C:\Windows\System32\Wbem;C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\;C:\Program Files\Intel\Intel(R) Management Engine Components\DAL;C:\Program Files\Intel\Intel(R) Management Engine Components\IPT;C:\Program Files (x86)\Intel\Intel(R) Management Engine Components\DAL;C:\Program Files (x86)\Intel\Intel(R) Management Engine Components\IPT;C:\eclipse\im_v8_eclipse\python2.7;C:\eclipse\im_v8_eclipse\python2.7\Scripts;C:\Java\jdk1.8\bin;
PATHEXT=.COM;.EXE;.BAT;.CMD;.VBS;.VBE;.JS;.JSE;.WSF;.WSH;.MSC

C:\Users\Administrator>
    
```

3. 「set java_home」と入力しエンターキーを押します。

- 環境変数設定で入力したパスが表示されていれば、「JAVA_HOME」の設定は完了しています。

```

C:\Windows\system32\cmd.exe
Microsoft Windows [Version 6.1.7601]
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Administrator>set java_home
JAVA_HOME=C:\Java\jdk1.8

C:\Users\Administrator>
    
```

次は、「[Web Application Server](#)」へ進みます。

Web Application Server

本書では、Resin を利用します。

項目

- [Resin の入手](#)
- [Resin のインストール](#)
- [Resin の設定](#)
- [Resin の起動](#)

Resin の入手

Resin は 以下の方法で取得できます。

[プロダクトファイルダウンロード](#)

→ resin-pro-4.0.xx .zip

Resin のインストール

ダウンロードした Resin を任意のパスに展開します。

i コラム

本書では、以下のパスに展開します。

「C:/Resin」

展開されたフォルダ名を resin-pro-4.0.xx から Resin に変更してください。

! 注意

Resin を起動するためには「.NET Framework 3.5」が必要です。

Windows Server 2012 環境では、「.NET Framework 4.5」のみインストールされているため、「.NET Framework 3.5」のセットアップを行ってください。

詳細は「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[.NET Framework のセットアップ](#)」を参照してください。

Resin の設定

1. <C:/Resin/conf/resin.properties> ファイルを開きます。

i コラム

resin.propertiesを開くには、テキストエディタが必要です。

2. 「jvm_args」プロパティに、インストール環境に応じたメモリ値、ヒープの最大サイズを設定します。

本書では、以下の値を設定します。

```
# Arg passed directly to the JVM
jvm_args : -Xmx4096m -Dfile.encoding=UTF-8 --add-opens=java.base/java.util=ALL-UNNAMED --add-
opens=java.base/java.lang=ALL-UNNAMED --add-opens=java.base/sun.util.locale=ALL-UNNAMED --add-
opens=java.xml/com.sun.org.apache.xerces.internal.jaxp=ALL-UNNAMED --add-opens=java.base/sun.util.calendar=ALL-UNNAMED
--add-opens=java.xml/com.sun.org.apache.xerces.internal.jaxp.datatype=ALL-UNNAMED --add-opens=java.base/java.text=ALL-
UNNAMED --add-opens=java.desktop/java.awt.font=ALL-UNNAMED --add-opens=java.base/java.math=ALL-UNNAMED --add-
opens=java.base/java.util.concurrent=ALL-UNNAMED
```

! 注意

設定する値は「4096m」以上にしてください。

「4096m」より小さい値を設定した場合、正常に動作しない恐れがあります。

! 注意

Java 8、または Java 11 を利用する場合は以下のコメントアウトを外して利用してください。

(メモリ値、ヒープの最大サイズはインストール環境に応じた値に読み替えてください。)

```
# When using Java 8 or 11
# jvm_args : -Dfile.encoding=UTF-8 -Djava.io.tmpdir=tmp -Xmx4096m -Xms4096m -XX:+UseG1GC -
XX:MaxGCPauseMillis=200 -XX:InitiatingHeapOccupancyPercent=30 -XX:-OmitStackTraceInFastThrow -
XX:+HeapDumpOnOutOfMemoryError
```

その際、以下はコメントアウトしてください。

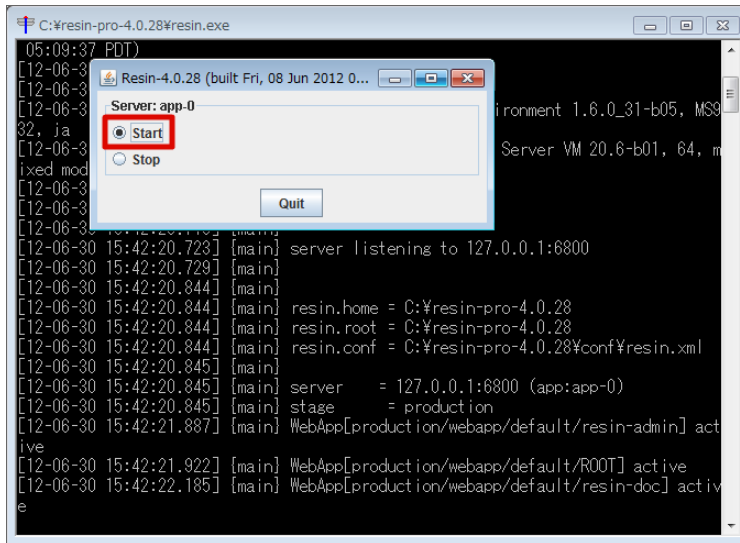
```
jvm_args : -Dfile.encoding=UTF-8 -Djava.io.tmpdir=tmp -Xmx4096m -Xms4096m -XX:+UseG1GC -
XX:MaxGCPauseMillis=200 -XX:InitiatingHeapOccupancyPercent=30 -XX:-OmitStackTraceInFastThrow -
XX:+HeapDumpOnOutOfMemoryError --add-opens=java.base/java.util=ALL-UNNAMED --add-
opens=java.base/java.lang=ALL-UNNAMED --add-opens=java.base/sun.util.locale=ALL-UNNAMED --add-
opens=java.xml/com.sun.org.apache.xerces.internal.jaxp=ALL-UNNAMED --add-
opens=java.base/sun.util.calendar=ALL-UNNAMED --add-
opens=java.xml/com.sun.org.apache.xerces.internal.jaxp.datatype=ALL-UNNAMED --add-
opens=java.base/java.text=ALL-UNNAMED --add-opens=java.desktop/java.awt.font=ALL-UNNAMED --add-
opens=java.base/java.math=ALL-UNNAMED --add-opens=java.base/java.util.concurrent=ALL-UNNAMED
```

Resin の起動

注意

Resin を起動するためには「.NET Framework 3.5」が必要です。Windows Server 2012 環境では、「.NET Framework 4.5」のみインストールされているため、「.NET Framework 3.5」のセットアップを行ってください。詳細は「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」-「[.NET Framework のセットアップ](#)」を参照してください。

1. <C:\Resin\resin.exe> ファイルをダブルクリックします。
「起動停止」画面とコンソールが表示されます。



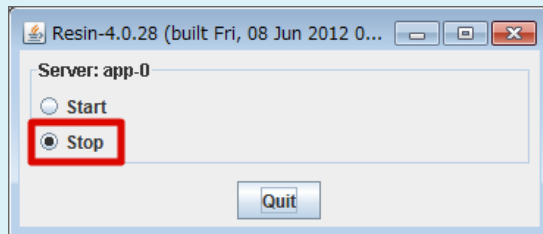
2. コンソールに以下のメッセージが表示されたら起動は完了です。

```
[12-07-02 18:30:00.000] {main} http listening to *:8080
[12-07-02 18:30:00.000] {main}
[12-07-02 18:30:00.000] {main} Resin[id=app-0] started in 55480ms
```

コラム

Resin の停止

1. 起動時に立ち上がった「起動停止」画面にて「Stop」をクリックします。



2. コンソールに以下のメッセージが表示されたら停止は完了です。

```
{resin-shutdown} Shutdown Resin reason: OK
```



コラム

Resin の起動時にポートが重複している旨のエラーが発生する場合、Resin の停止後、ポート番号の設定を変更してください。

```
java.lang.RuntimeException: java.net.BindException: Address already in use: JVM_Bind
    Can't bind to *:8080.
    Check for another server listening to that port.
```

「app.http」プロパティに設定されている「8080」を、「8081」などの使用されていないポート番号に変更してください。

```
# Set HTTP and HTTPS ports.
# Use overrides for individual server control, for example: app-0.http : 8081
app.http      : 8081
```

変更が完了したら、Resin を再起動してください。

次は、「データベース」へ進みます。

データベース

本書では、PostgreSQL を利用します。

項目

- PostgreSQL のダウンロード
- PostgreSQL のインストール
- データベースとログインロールの作成

PostgreSQL のダウンロード

- PostgreSQL は次のURLよりダウンロードできます。
環境に適したものをダウンロード後、インストールを行ってください。
<https://www.enterprisedb.com/downloads/postgres-postgresql-downloads> (English)

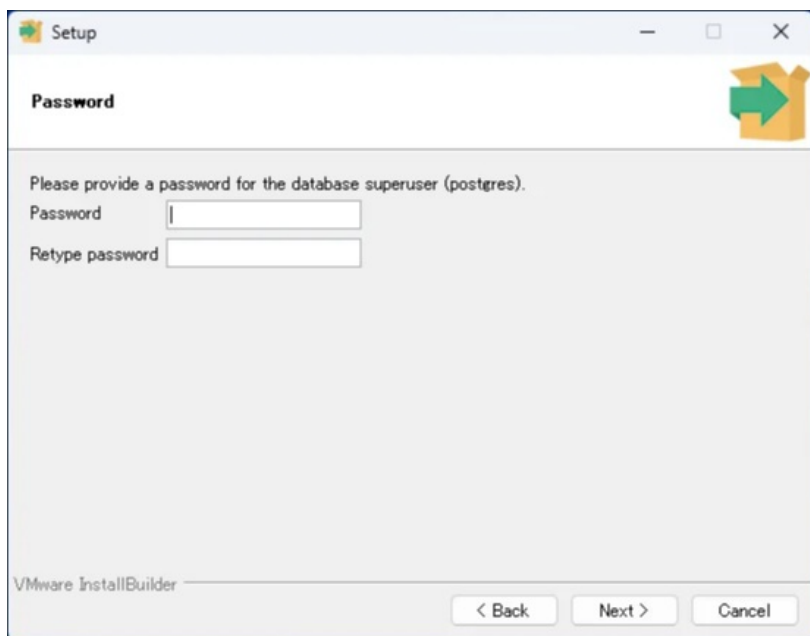


コラム

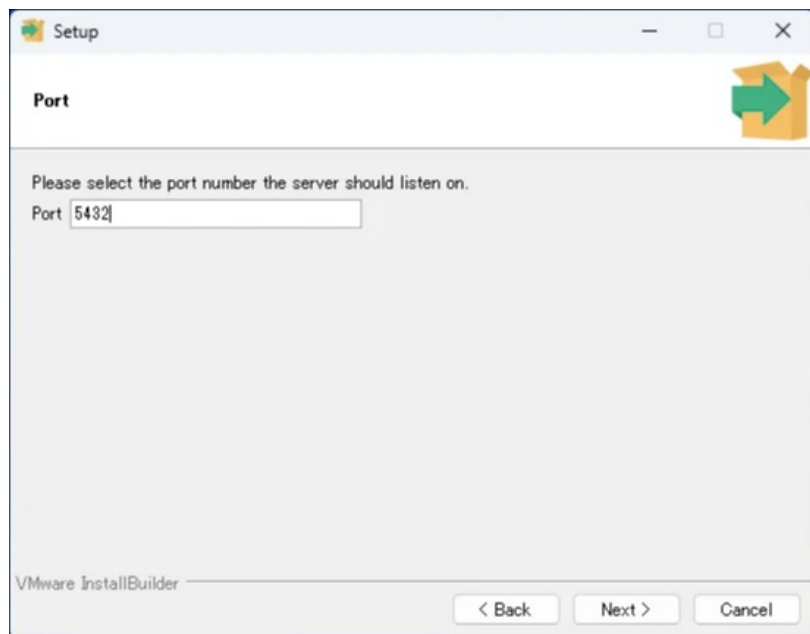
ダウンロードするバージョンは、「リリースノート」-「システム要件」を参照してください。

PostgreSQL のインストール

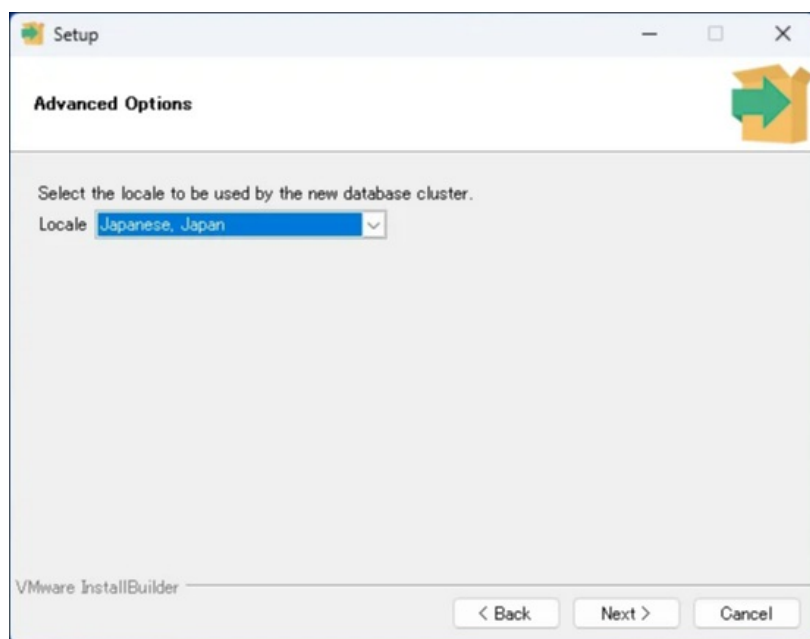
1. ダウンロードしたexeファイルをダブルクリックします。
2. 以下の画面が表示されるまで「Next」をクリックします。
任意の「Password」を設定し、「Next」をクリックします。



3. デフォルト値のまま「Next」をクリックします。

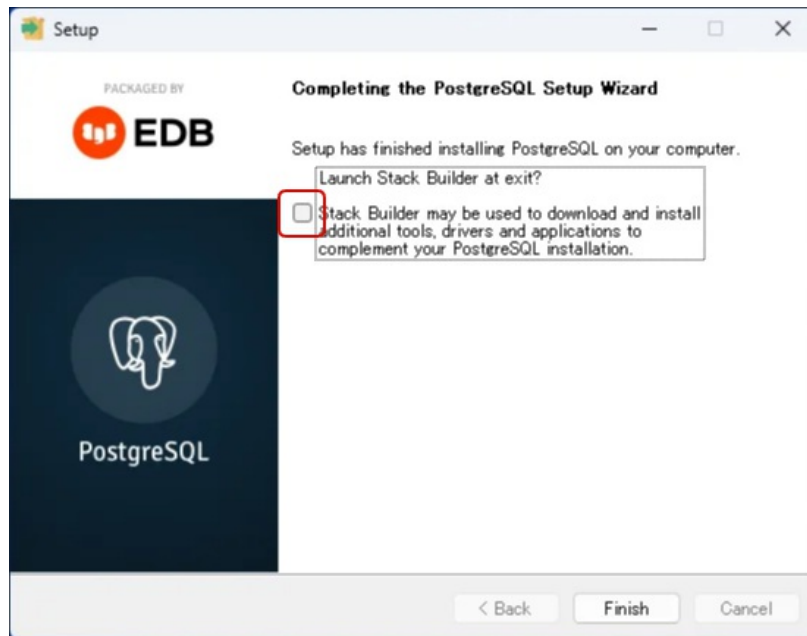


4. ロケールを選択し、「Next」をクリックします。



5. 以下の画面が表示されるまで「Next」をクリックします。

チェックボックスのチェックを外して「Finish」をクリックします。 PostgreSQL のインストールは完了です。



データベースとログインロールの作成

コラム

英語表記場合は、「File」→「Preferences」→「Miscellaneous」→「User language」から **Japanese** を選択して、日本語表記に変更できます。

1. pgAdmin ツールを起動します。

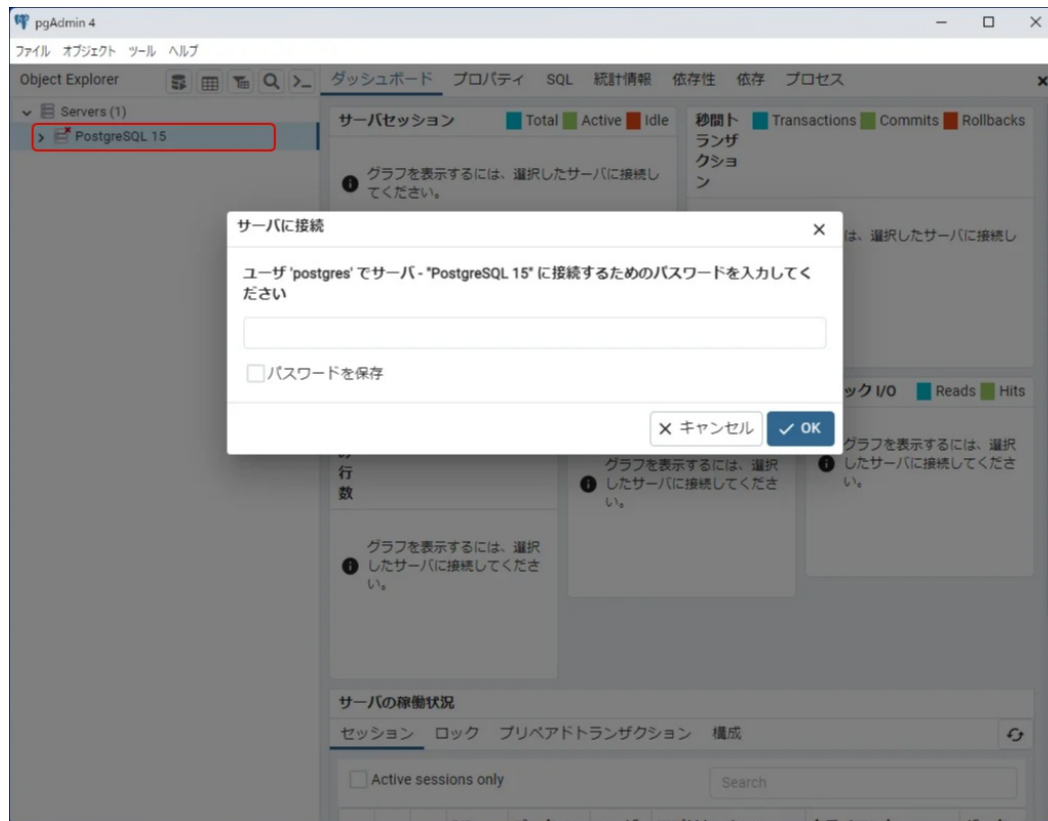
コラム

pgAdmin ツールの起動方法

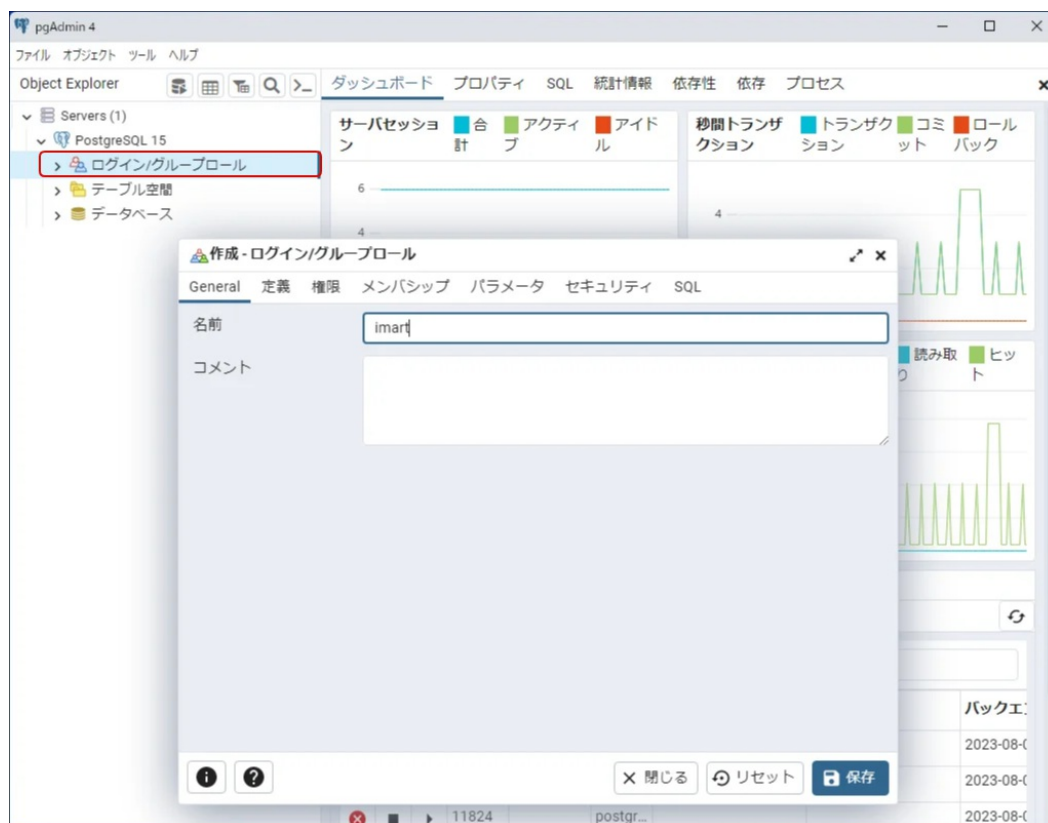
- Windowsマークまたはスタートをクリック
- アプリ、設定、ドキュメントの検索に「pgAdmin」と入力し、表示された「pgAdmin4」をクリックします。

2. サーバに接続します。

「Object Explorer」の「サーバ名」を右クリック、「サーバに接続」をクリックします。
PostgreSQL のインストールで設定したパスワードを入力し、「OK」をクリックします。



- ログインロールを作成します。
「Object Explorer」の「ログイン/グループロール」を右クリック、「作成」→「ログイン/グループロール」をクリックします。
サブウィンドウが表示されます。



以下を入力し「保存」をクリックします。



コラム

本書では、以下を指定します。

Generalタブ

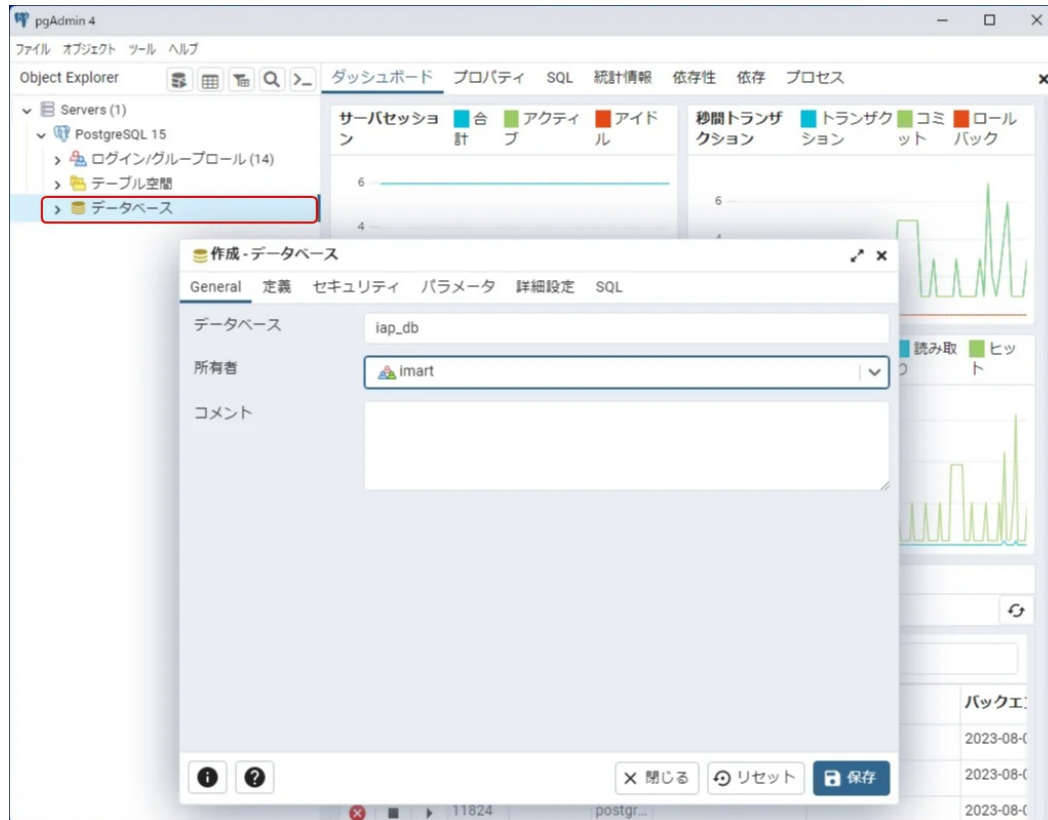
名前「imart」

定義タブ

パスワード「imart」

4. データベースを作成します。

「Object Explorer」の「データベース」を右クリック、「作成」→「データベース」をクリックします。
サブウィンドウが表示されます。



以下を入力、選択し「保存」をクリックします。

Generalタブ

[データベース] (任意)

[所有者] (上記「3. ログインロールを作成します」で作成したログインロール)



コラム

本書では、以下を指定します。

データベース「iap_db」

所有者「imart」

次は、「[JDBC ドライバ](#)」へ進みます。

JDBC ドライバ

項目

- [JDBCドライバのインストール](#)
- [JDBCドライバの配置](#)

JDBCドライバのインストール

**注意**

Resinは、**JDBC 4.2** を利用する場合4.0.56以上が必要です。

1. PostgreSQL のJDBCドライバは以下のURLよりダウンロードできます。
<https://jdbc.postgresql.org/download/>（English）
2. 利用するデータベースがサポートしている JDBC 4.2 の最新ファイルを入手してください。

JDBCドライバの配置

- ダウンロードした、JDBCドライバを以下のディレクトリにコピーします。

C:/Resin/lib

次は、「[Web Server](#)」へ進みます。

Web Server

本書では、Apache HTTP Server を利用します。

**警告**

運用環境でのご利用は、必ずWeb Serverを経由してWeb Application Serverへ接続してください。

静的コンテンツは、必ずWeb Serverに配置することが条件です。

これに該当しない接続の場合は、動作保証外（サポートの対象外）です。

Resin の httpd機能は、開発（e Builder）用です。

項目

- [mod_proxy/mod_rewriteの利用](#)
- [mod_proxy/mod_rewriteの取得](#)
- [apache設定ファイルの編集](#)
- [アクセスログの編集](#)
- [制限事項](#)

mod_proxy/mod_rewriteの利用

ここではResinの組み込みモジュールを利用せずApacheのモジュール（mod_proxy/mod_rewrite）を利用して、webサーバとintra-mart Accel Platformの連携を行う場合の設定を行います。

mod_proxy/mod_rewriteの取得

製品元のマニュアルを参照してください。

apache設定ファイルの編集

1. <%APACHE_HOME%/conf/httpd.conf> ファイルを開きます。
2. Dynamic Shared Object (DSO) Supportエリアに以下の設定を追加またはコメントアウトを外してください。

```
LoadModule rewrite_module modules/mod_rewrite.so
LoadModule proxy_module modules/mod_proxy.so
LoadModule proxy_http_module modules/mod_proxy_http.so
```

3. 末尾にAllowEncodedSlashesディレクティブ、mod_proxyおよびmod_rewriteの設定を追加してください。

コンテキストパス	imart
apacheのドキュメントルート	C:/Apache24/htdocs
静的ファイルの展開フォルダ	C:/Apache24/htdocs/imart
Web Application ServerのIPアドレス	192.168.1.1

上記の例である場合の設定は以下の通りです。

```
SetEnv proxy-nokeepalive 1
AllowEncodedSlashes On
RewriteEngine On
RewriteCond %{REQUEST_URI} !^/imart/reverse_proxy/
RewriteCond %{REQUEST_URI} ^/imart/(.*\.(gif|.*\.(GIF))$ [OR]
RewriteCond %{REQUEST_URI} ^/imart/(.*\.(png|.*\.(PNG))$ [OR]
RewriteCond %{REQUEST_URI} ^/imart/(.*\.(jpg|.*\.(JPG))$ [OR]
RewriteCond %{REQUEST_URI} ^/imart/(.*\.(css|.*\.(CSS))$ [OR]
RewriteCond %{REQUEST_URI} ^/imart/(.*\.(js|.*\.(JS))$ [OR]
RewriteCond %{REQUEST_URI} ^/imart/(.*\.(swf|.*\.(SWF))$ [OR]
RewriteCond %{REQUEST_URI} ^/imart/(.*\.(ico|.*\.(ICO))$ [OR]
RewriteCond %{REQUEST_URI} ^/imart/(.*\.(json|.*\.(JSON))$ [OR]
RewriteCond %{REQUEST_URI} ^/imart/(.*\.(jar|.*\.(JAR))$ [OR]
RewriteCond %{REQUEST_URI} ^/imart/(.*\.(xml|.*\.(XML))$ [OR]
RewriteCond %{REQUEST_URI} ^/imart/(.*\.(yaml|.*\.(YAML))$ [OR]
RewriteCond %{REQUEST_URI} ^/imart/(.*\.(txt|.*\.(TXT))$ [OR]
RewriteCond %{REQUEST_URI} ^/imart/(.*\.(html|.*\.(HTML)|.*\.(htm|.*\.(HTM))$
RewriteRule ^/imart/(.*)?$ /imart/$1

ProxyPreserveHost On
ProxyPass /imart/ http://192.168.1.1:8080/imart/ nocanon
ProxyPassReverse /imart/ http://192.168.1.1:8080/imart/ nocanon
ProxyTimeout 1200
```

コラム

上記に指定した拡張子は、intra-mart Accel Platform Advanced版+intra-mart Accel Collaboration+IM-FormaDesigner for Accel Platformで静的ファイルとして扱う必要がある拡張子です。
上記RewriteCondにない静的ファイルを取り扱いたい場合には、RewriteCondの記述を追加してください。

コラム

「ProxyTimeout」にはプロキシサーバがResinへの接続を切断するまでのタイムアウト時間を設定します。
テナント環境セットアップを完了するのに十分に大きい値を設定してください。
ここでは例として1200秒を設定しています。

注意

APサーバのコンテキストルートを必ずリクエストに含むようにしてください。
APサーバ側 `http://myapp/imart` であれば、リクエストのURLは `http://myweb/imart` にしてください。

4. Apacheを再起動してください。

アクセスログの編集

リバースProxyの場合、Resinが出力するaccess.logのソースIPがすべて127.0.0.1になってしまいます。これを回避するためにaccess.logの出力内容を編集します。

1. `<%RESIN_HOME%/conf/resin.xml>` ファイルを開きます。
2. `<host id="" root-directory="">` ディレクティブ内に以下の設定を追加してResinの再起動を行ってください。

```
<access-log path='log/access.log'>
  <rollover-period>1D</rollover-period>
  <format>{%X-Forwarded-For}i %h %l %u %t "%r" %>s %b "%{Referer}i" "%{User-Agent}i"</format>
</access-log>
```

コラム

access-logについての詳細な設定内容については「[Resin Documentation](#)」を参照してください。

制限事項

制限事項については「[リリースノート](#)」-「[制限事項](#)」を参照してください。

次は、「[WAR ファイルの作成](#)」へ進みます。

WARファイルの作成

- WARファイルの作成には次の手順が必要です。

プロジェクトの作成とモジュールの選択

項目

- IM-Juggling とは
- IM-Juggling のインストール
- プロジェクトの新規作成
- モジュールの選択
- アプリケーションの追加

IM-Juggling とは

IM-Juggling はモジュールの管理、WARファイルを出力できる環境構築ツールです。
このツールを使用し、新しい機能の導入や不具合修正の適用をします。

IM-Juggling のインストール

環境に合わせた IM-Juggling を任意のパスに展開します。



コラム

IM-Juggling は [プロダクトファイルダウンロード](#) よりライセンスキーを入力してダウンロードしてください。



コラム

インターネットに接続できない環境で IM-Juggling を利用する場合は、「[intra-mart Accel Platform セットアップガイド](#)」の「[インターネットに接続できない環境で IM-Juggling を利用する場合](#)」を参照してください。



注意

利用する環境でプロキシ設定などが必要な場合は、「設定」-「一般」-「ネットワーク接続」を開きます。
アクティブ・プロバイダとして「ネイティブ」を選択した場合、Internet Explorer のプロキシサーバの設定情報を引き継ぎます。

(Internet Explorerで「Alt」キーを押してメニューを表示し、「ツール」→「インターネットオプション」→「接続」タブ→「LANの設定」で表示されるプロキシサーバの設定です)

アクティブ・プロバイダとして「手操作 (マニュアル)」を選択し、プロキシ・エントリの「HTTP」の「編集」をクリックします。

プロキシ・エントリの編集 画面で「ホスト」、「ポート」、「認証情報」を設定して「OK」をクリックします。



注意

IM-Juggling を利用してプロジェクトの作成や、WARファイルの作成を行っている際にリポジトリ情報の取得等のエラーが発生した場合、下記のディレクトリにあるデータを削除して再度、IM-Juggling を起動して試行してください。

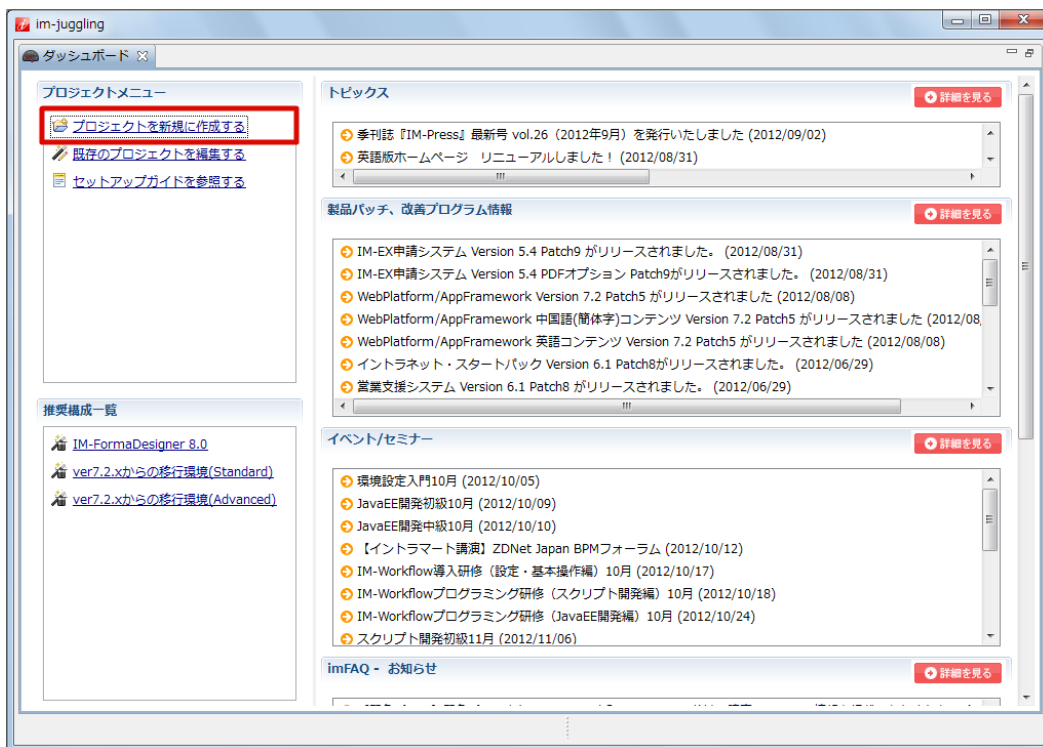
%OSユーザディレクトリ%/juggling/workspace/.repository ディレクトリ

古い情報が残っているためにエラーとなる場合があります。
この古いファイルを削除する事で、最新のデータが再取得され問題を回避します。

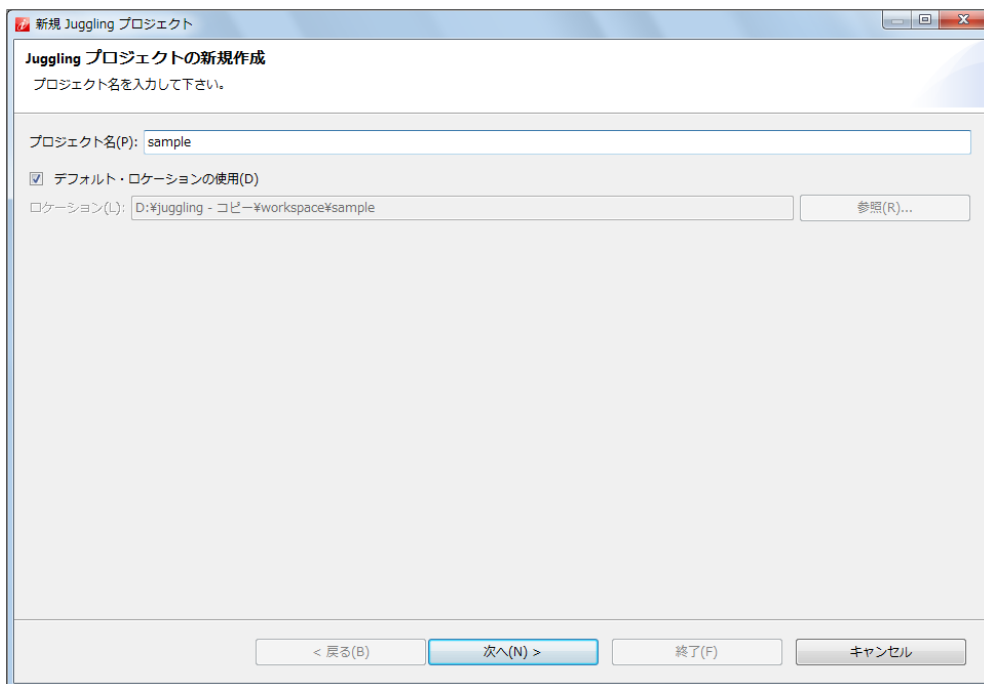
プロジェクトの新規作成

- 展開したディレクトリ直下にある、**juggling.exe** を起動します。
- 初回起動時の場合、「使用許諾契約書の同意」が表示されます。

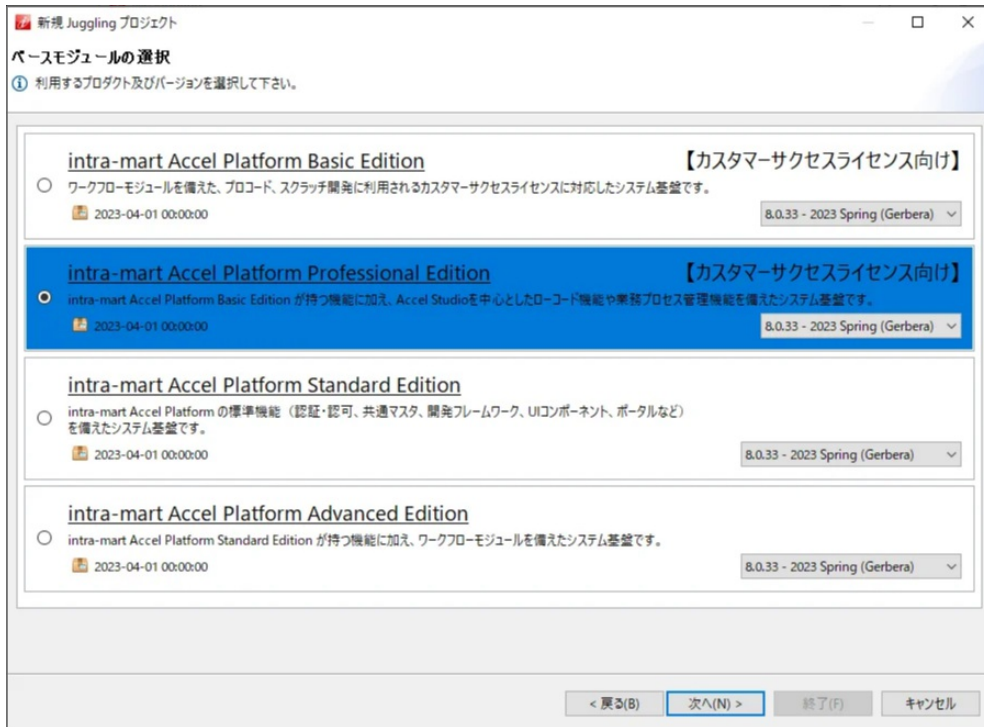
3. ダッシュボードが表示されます。
「プロジェクトを新規に作成する」を選択します。



4. ポップアップ表示されたウィザード画面内の「プロジェクト名」に半角英数字の任意のプロジェクト名を入力します。
入力後、「次へ (N)」をクリックします。



5. 利用するプロダクトおよびバージョンを選択します。
選択後、「次へ (N)」をクリックします。



コラム

ライセンスの種別によって、利用できるプロダクトが異なります。

■ カスタマーサクセスライセンスの場合

Basic Edition、Advance Edition、Professional Edition が選択できます。
Basic Edition と Advance Edition と Professional Edition は、含まれる製品に違いがあります。
より製品を体験頂くため **Professional Edition** を選択する事を推奨します。

■ パッケージライセンスの場合

Standard Edition、Advanced Edition が選択できます。
Standard Edition と Advanced Edition は、含まれる製品に違いがあります。
より製品を体験頂くため **Advanced Edition** を選択する事を推奨します。

■ ASEAN地域向けのカスタマーサクセスライセンスの場合

Pro-Code Edition、Low-Code Edition が選択できます。
Pro-Code Edition、Low-Code Edition は、含まれる製品に違いがあります。
より製品を体験頂くため **Low-Code Edition** を選択する事を推奨します。

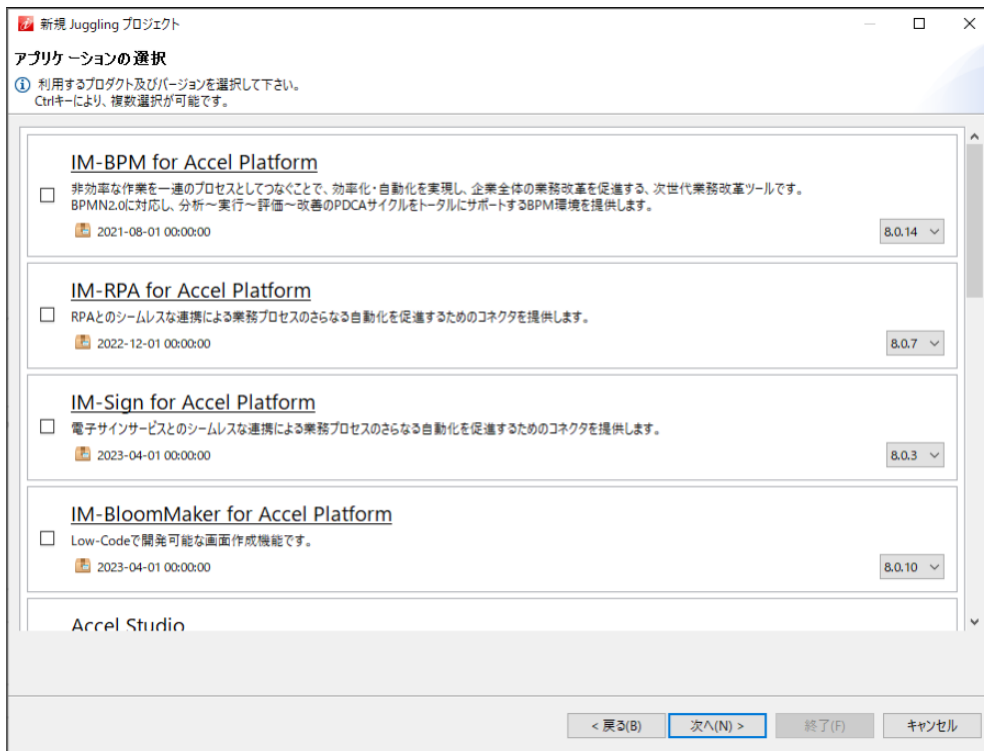
ライセンスの種別の詳細は、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」-「ライセンスについて」を参照してください。

各製品構成については、「イントロダクション」-「intra-martの製品構成」を参照してください。

コラム

同一プロダクトにおいて複数のバージョンが表示されている場合は最新のものを選択する事を推奨します。

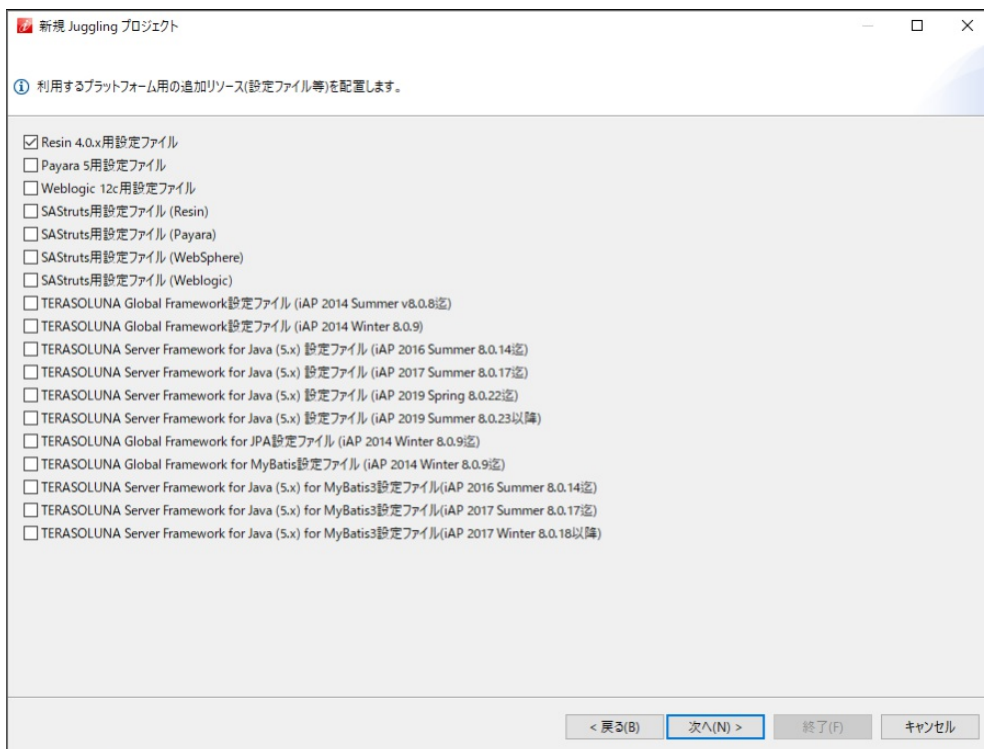
6. 利用するアプリケーションを選択します。
選択後、「次へ (N)」をクリックします。



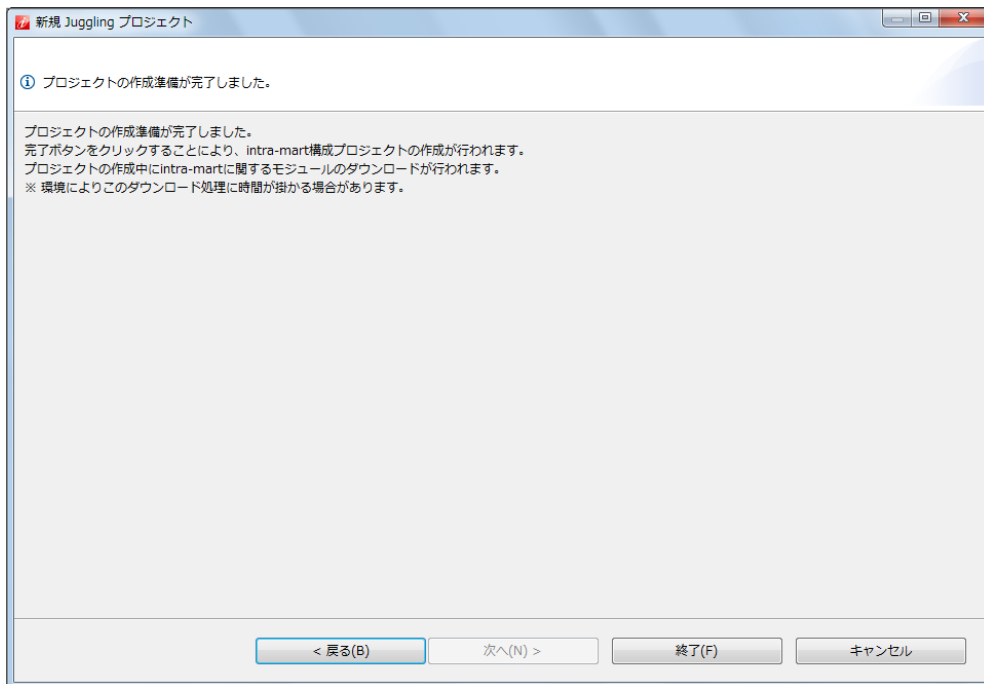
注意

「移行ツール」、「互換機能」は version7.2 からの移行を行う場合に選択します。
本書でのセットアップでは必要ありませんので、選択しないようにしてください。

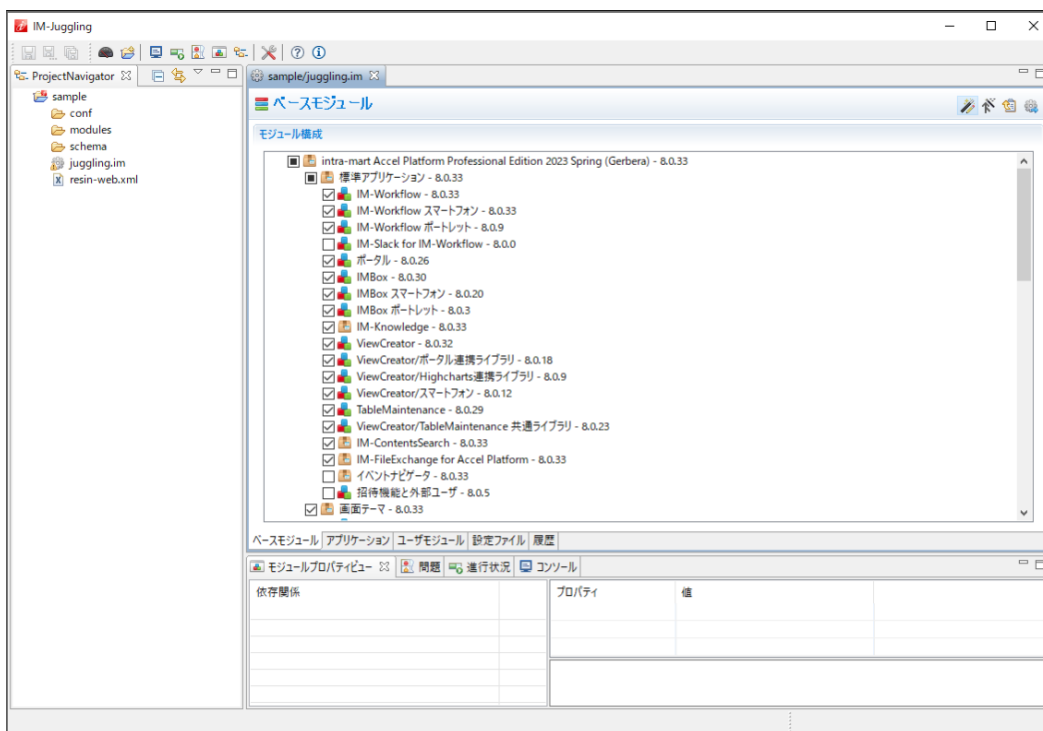
7. 利用するプラットフォーム用の追加リソース（設定ファイル等）を選択する画面が表示されますが、変更しないまま、「次へ（N）」をクリックします。



8. 最後に「終了（F）」をクリックします。



9. プロジェクトの作成処理が行われ、完了すると以下の画面が表示されます。



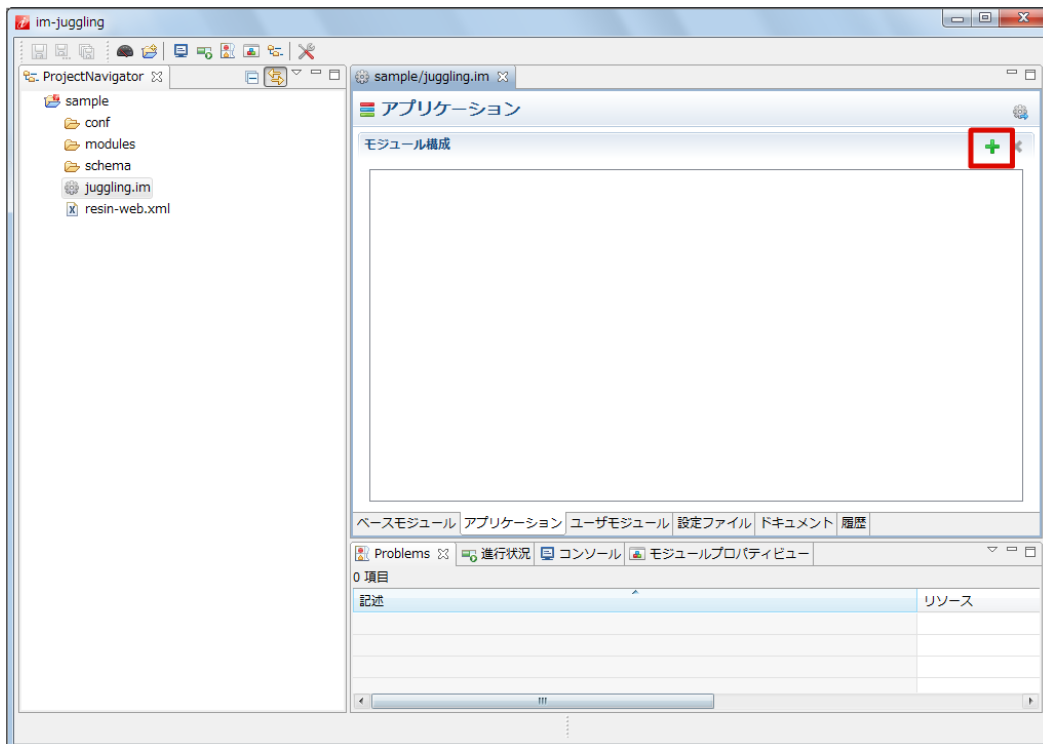
モジュールの選択

1. 利用するモジュールを選択します。
※ここでは、何も変更する必要はありません。

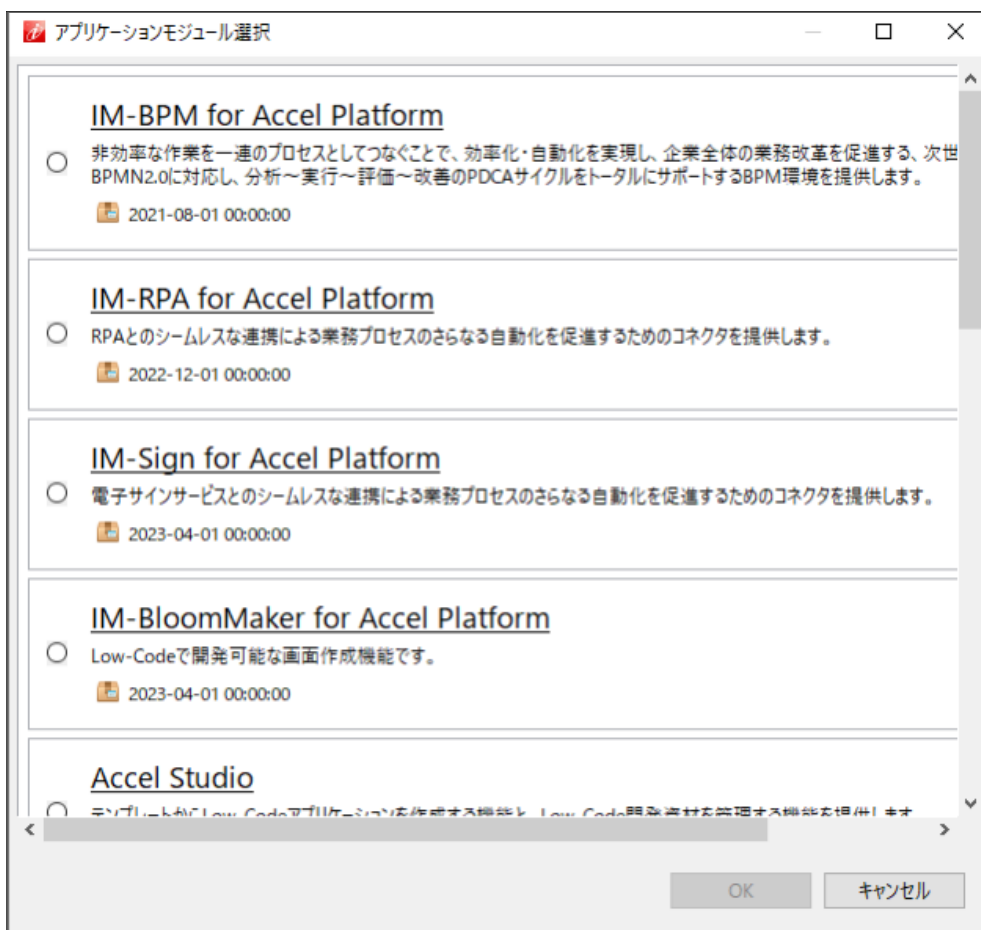
アプリケーションの追加

プロジェクト作成後、アプリケーションを追加できます。

1. 「アプリケーション」タブをクリックし、「+」をクリックします。



2. 追加したいアプリケーションをクリックし、「OK」をクリックします。



注意

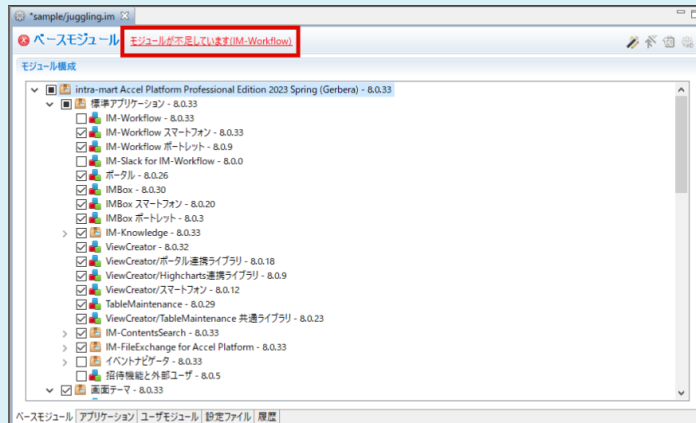
「移行ツール」、「互換機能」は version7.2 からの移行を行う場合に選択します。
本書でのセットアップでは必要ありませんので、選択しないようにしてください。



コラム

画面上部にエラーメッセージが表示される場合

モジュール単位・アプリケーション単位で依存関係を持っています。



以下の手順で必要な設定を追加できます。

1. メッセージをクリックします。
2. 「依存関係の解決」画面で「OK」をクリックします。

次は、「[全文検索機能 \(IM-ContentsSearch\) の設定](#)」へ進みます。

全文検索機能 (IM-ContentsSearch) の設定

全文検索機能 (IM-ContentsSearch for Accel Platform) で利用する Apache Solr の設定を行います。

項目

- [モジュールの選択](#)
- [Solrサーバ接続設定 \(solr-config.xml\)](#)

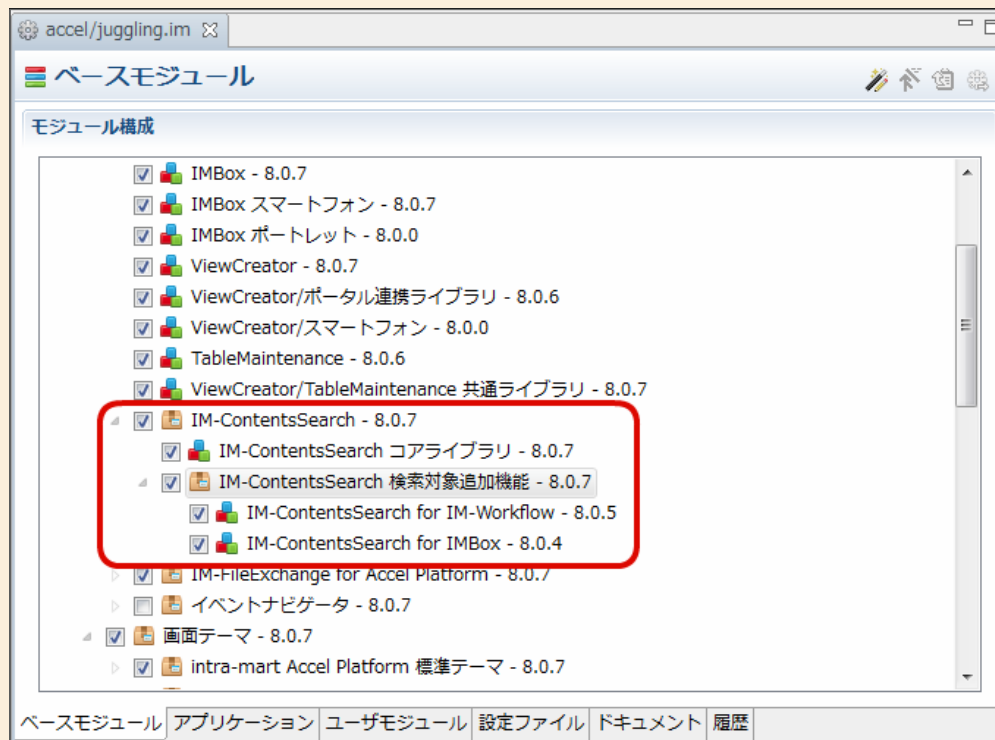
モジュールの選択

intra-mart Accel Platform で全文検索機能を実現するためのモジュールです。

検索対象を追加するには検索対象追加モジュールを追加する必要があります。

注意

IM-ContentsSearch モジュールを利用する場合は、IM-Juggling で IM-ContentsSearch モジュールを選択してください。
IM-Juggling のプロジェクト作成時の初期設定では、IM-ContentsSearch モジュールは選択済み状態です。



Solrサーバ接続設定 (solr-config.xml)

Solrサーバへ接続する設定をします。

1. 「ProjectNavigator」内の < (プロジェクト名) /conf/solr-config.xml> ファイルをダブルクリックで開き、「ソース」タブを選択してください。

```
<group name="default">
  <searcher>
    <method>POST</method>
    <distribution-policy>FIRST</distribution-policy>
    <servers>
      <url>http://localhost:8983/solr/default</url>
    </servers>
  </searcher>
  <indexer>
    <distribution-policy>IDHASH</distribution-policy>
    <servers>
      <url>http://localhost:8983/solr/default</url>
    </servers>
  </indexer>
  <extractor ref="im_default" />
</group>
```

2. <url>設定値を次のように変更します。

- 変更前 : <url>http://localhost:8983/solr/default</url>
- 変更後 : <url>http://localhost:8080/solr/default</url>

コラム

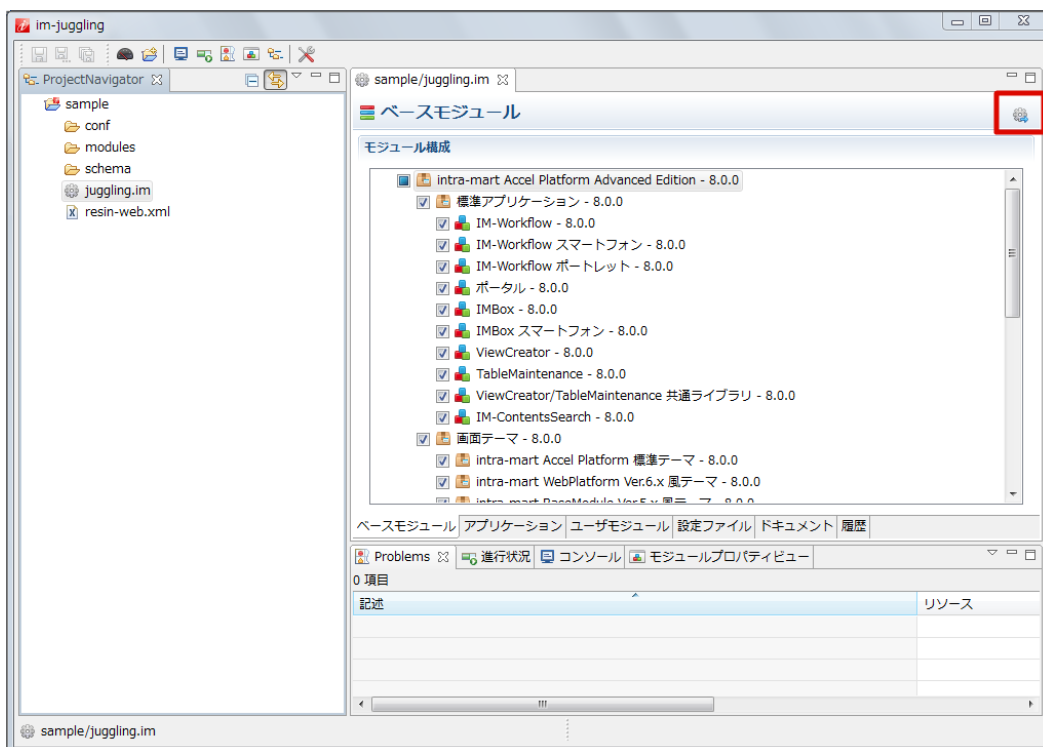
「ProjectNavigator」内のツリー上に設定ファイルがない場合

1. < (プロジェクト名) /juggling.im> ファイルをダブルクリックします。
2. 「設定ファイル」タブをクリックします。
3. 対象の設定ファイルを選択し、右側にある「出力」をクリックします。
4. 「ProjectNavigator」内のツリー上に表示されたファイルをダブルクリックして編集を行います。

次は、「[WARファイルの出力](#)」へ進みます。

WARファイルの出力

1. <juggling.im> ファイルを開き、右上にある「ビルドウィザード」アイコンをクリックします。



2. 「サーバ製品の選択」画面で対象となるサーバを選択し、「次へ」をクリックします。



コラム

本書では、Resin 4.0.x を選択します。



3. 「基本設定」画面で設定を行い、「次へ」をクリックします。



コラム

本書では、以下を設定します。

利用種別は「製品版」を選択します。

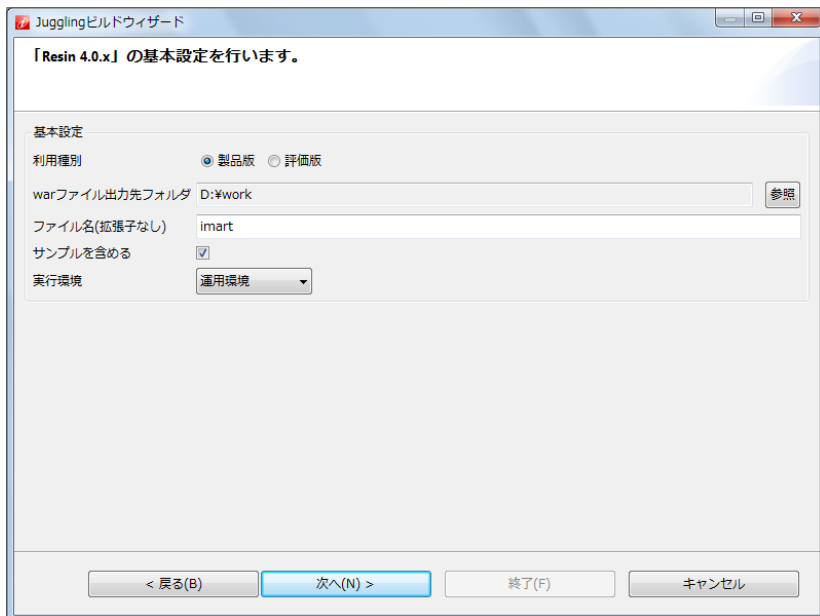
warファイル出力先フォルダは「C:\」を選択します。

ファイル名（拡張子なし）には「imart」と入力します。

「サンプルを含める」の、チェックボックスをオンにします。

実行環境は「運用環境」を選択します。

上記以外の設定詳細を参照したい場合は「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」の「WARファイルの出力」を参照してください。



注意

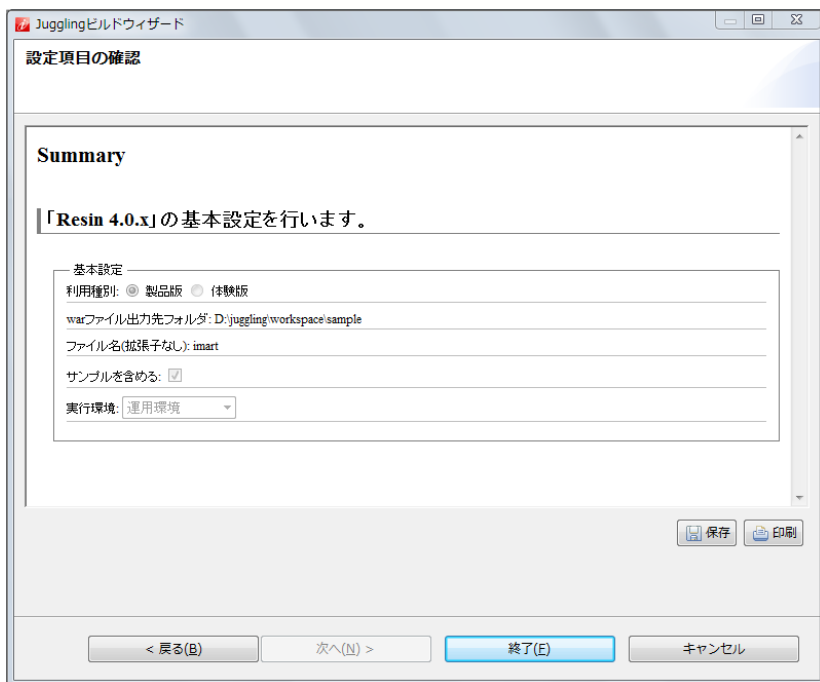
「WARファイル出力先フォルダ」には、実行するユーザの権限があるフォルダを指定してください。

4. 「ライセンスのレビュー」画面で内容を確認し、同意頂ける場合は「使用条件の条項に同意します。」を選択し、「次へ」をクリックします。

5. 「設定項目の確認」画面で内容を確認し、「終了」をクリックします。

Jugglingビルドウィザード画面が立ち上がり、ダウンロードが開始されます。

ダウンロードに時間がかかりますので、完了するまで操作を行わないでください。

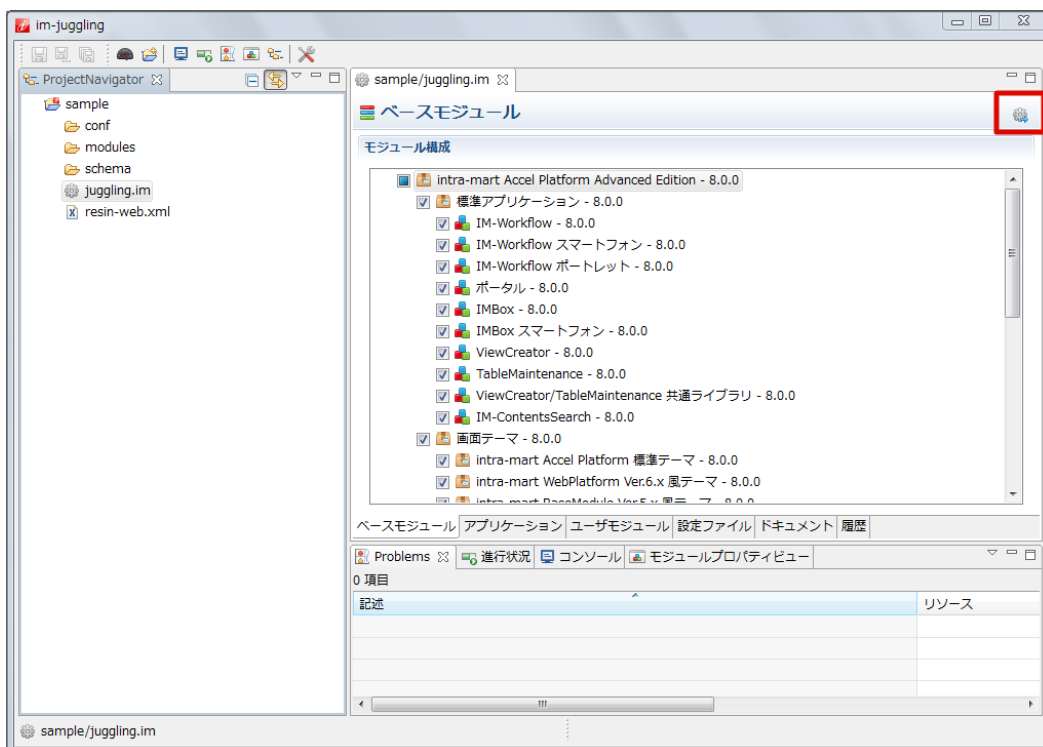


6. WARファイルが指定の場所に出力されると、ビルドウィザード画面が閉じます。
指定したディレクトリにWARファイルが出力されます。

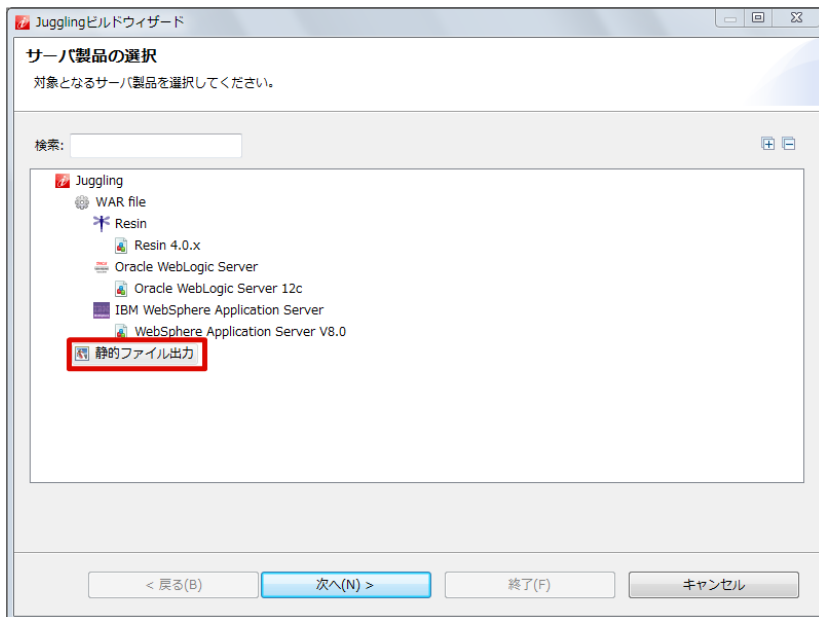
次は、「静的ファイルの出力」へ進みます。

静的ファイルの出力

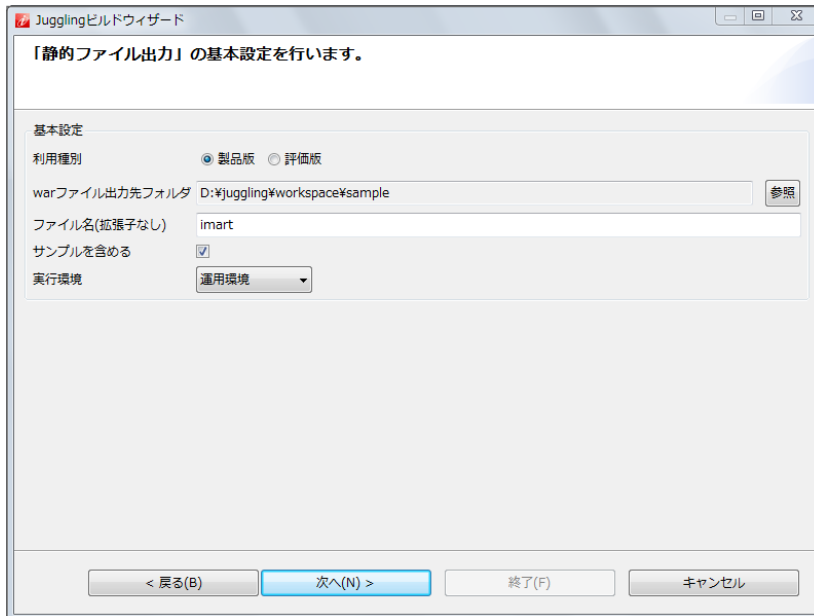
1. <juggling.im> ファイルを開き、右上にある「ビルドウィザード」アイコンをクリックします。



2. 「サーバ製品の選択」画面で「静的ファイル」を選択し、「次へ」をクリックします。



3. 「基本設定」画面で設定を行い、「次へ」をクリックします。



利用種別

- 製品版
ライセンスを購入されたお客様は製品版を選択してください。
- 評価版
評価版です。
正規に使用する場合はライセンスを購入してください。

サンプルデータを含める

チェックを入れた場合、サンプルデータを投入します。

実行環境

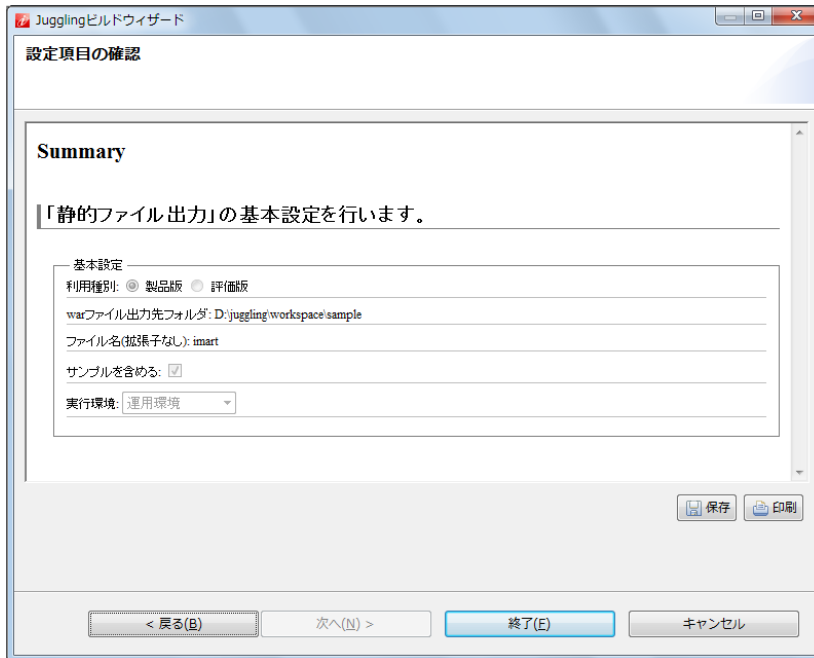
- ユニットテスト環境
ユニットテスト環境を表します。
JUnitなどを利用する場合を想定しています。
パフォーマンスに関しては考慮しません。
- 結合テスト環境
結合テスト環境を表します。
IDEを使用したテスト環境などを想定しています。
一般的に最も利用される環境を想定しています。
必要最低限の動作環境です。
- 統合テスト環境
統合テスト環境を表します。
本来の実行環境（APサーバ）を使用した統合テスト環境を想定しています。
カットオーバー直後等でもこの環境を利用することを想定しています。
- 運用環境
運用環境を表します。
パフォーマンスを考慮した動作環境です。



注意

「warファイル出力先フォルダ」には、実行するユーザの権限があるフォルダを指定してください。

4. 「ライセンスのレビュー」画面で内容を確認し、同意頂ける場合は「使用条件の条項に同意します。」を選択し、「終了」をクリックします。
5. 「設定項目の確認」画面で内容を確認し、「終了」をクリックします。
Jugglingビルドウィザード画面が立ち上がり、ダウンロードが開始されます。
ダウンロードに時間がかかりますので、完了するまで操作を行わないでください。



6. zipファイルが指定の場所に出力されると、ビルドウィザード画面が閉じます。

7. 出力されたzipファイルを、Web Server の仮想ディレクトリで設定したディレクトリにzipファイルを展開して配置します。

次は、「[Apache Cassandra](#)」へ進みます。

次は、「[プロジェクトの作成とモジュールの選択](#)」へ進みます。

Apache Cassandra

項目

- [Apache Cassandra のセットアップ](#)
- [設定ファイルの編集](#)
- [Apache Cassandra の起動](#)

Apache Cassandra のセットアップ

i コラム

[プロジェクトの作成とモジュールの選択](#)で IMBox アプリケーションを選択しなかった場合、Apache Cassandra のセットアップは不要です。

i コラム

今回のセットアップでは、Apache Cassandra は intra-mart Accel Platform と同じマシンにセットアップします。

1. Apache Cassandra を入手します。

▪ Java11 以降の場合

Apache Cassandra のホームページより取得した Cassandra 1.1.12 は、Java 11 以降で起動が行えません。

弊社にて、Java 11 以降で起動可能に設定した Cassandra 1.1.12 をプロダクトファイルダウンロードにて配布しています。

Java 11 以降で Cassandra の運用を行う場合は「[プロダクトファイルダウンロード](#)」より<apache-cassandra-1.1.12-bin.tar.gz>をダウンロードしてください。

▪ Java8 の場合

Apache Cassandra は次のURLよりダウンロードできます。

<http://archive.apache.org/dist/cassandra/1.1.12/apache-cassandra-1.1.12-bin.tar.gz>

2. ダウンロード後、<apache-cassandra-1.1.12-bin.tar.gz>ファイルを任意のパスに展開します。

※ファイルの展開には、TAR-GZ形式の圧縮ファイルが展開できる解凍ツールを利用してください。



コラム

本書では、以下のパスに展開します。

「C:/apache-cassandra-1.1.12」

3. <C:/apache-cassandra-1.1.12/bin/cassandra.bat> ファイルをエディタで開きます。



注意

このファイルは展開直後は読み取り専用属性となっているため解除しておきます。

- インストール環境に応じたメモリ値を指定します。
「Xms」プロパティに最小ヒープサイズ、「Xmx」プロパティに最大ヒープサイズを指定します。



コラム

```
set JAVA_OPTS=-ea^
-javaagent:"%CASSANDRA_HOME%\libjamm-0.2.5.jar"^
-Xms512M^
-Xmx512M^
```



注意

設定する値は「512M」以上にしてください。
Cassandraとしては1GB以上に設定することを推奨されています。
「512M」より小さい値を設定した場合、正常に動作しない恐れがあります。

設定ファイルの編集

環境設定を行います。

1. <C:/apache-cassandra-1.1.12/conf/cassandra.yaml> ファイルをエディタで開きます。



注意

このファイルは展開直後は読み取り専用属性となっているため解除しておきます。

- データの保存場所を指定します。
指定したディレクトリが無い場合、起動時に自動で作成されます。
「data_file_directories」プロパティに任意のパスを指定します。



コラム

本書では、以下の内容を指定します。

```
data_file_directories:
- C:/apache-cassandra-1.1.12/data_file
```

- CommitLogの保存場所を指定します。
指定したディレクトリが無い場合、起動時に自動で作成されます。
「commitlog_directory」プロパティに任意のパスを指定します。



コラム

本書では、以下の内容を指定します。

```
# commit log
commitlog_directory: C:/apache-cassandra-1.1.12/commit_log
```

- キャッシュデータの保存場所を指定します。
指定したディレクトリが無い場合、起動時に自動で作成されます。
「saved_caches_directory」プロパティに任意のパスを指定します。

コラム

本書では、以下の内容を指定します。

```
# saved caches
saved_caches_directory: C:/apache-cassandra-1.1.12/saved_caches
```

2. <C:/apache-cassandra-1.1.12/conf/log4j-server.properties> ファイルをエディタで開きます。

注意

このファイルは展開直後は読み取り専用属性となっているため解除しておきます。

- システムログの保存場所を指定します。

「log4j.appender.R.File」プロパティに任意のパスを指定します。

コラム

本書では、例として次の内容を指定します。

```
log4j.appender.R.File=C:/apache-cassandra-1.1.12/system.log
```

Apache Cassandra の起動

Apache Cassandra を起動します。

1. <C:/apache-cassandra-1.1.12/bin/cassandra.bat> をダブルクリックします。

コマンドプロンプト上に次のメッセージが表示されたら起動は完了です。

```
INFO 12:55:11,319 Using synchronous/threadpool thrift server on localhost/127.0.0.1 : 9160
INFO 12:55:11,320 Listening for thrift clients...
```

コラム

Apache Cassandra の起動時、以下のエラーが発生する場合、ポート番号の設定を変更してください。

```
エラー: エージェントが例外をスローしました。 : java.rmi.server.ExportException: Port already in use: 7199;
nested exception is: java.net.BindException: Address already in use: JVM_Bind
```

<C:/apache-cassandra-1.1.12/bin/cassandra.bat> ファイルをエディタで開きます。

Dcom.sun.management.jmxremote.portプロパティに設定されている「7199」を、「7198」などの使用されていないポート番号に変更してください。

```
-Dcom.sun.management.jmxremote.port=7198^
```

変更が完了したら、再度 Apache Cassandra を起動してください。

コラム

2回目以降の起動がうまくいかない場合

<C:/apache-cassandra-1.1.12/commit_log> ディレクトリを削除し、Apache Cassandra を再起動してください。

コラム

Apache Cassandra の停止方法

起動時に立ち上がったコマンドプロンプト上において「Ctrl」+「C」コマンドを実行し、プロセスを停止します。

より細かい設定等を参照したい場合は「[Cassandra管理者ガイド](#)」を参照してください。

次は、「[Apache Solr](#)」へ進みます。

項目

- Apache Solr のセットアップ
- Apache Solr の起動、Admin画面へ接続、停止

Apache Solr のセットアップ

i コラム

プロジェクトの作成とモジュールの選択で IM-ContentsSearch アプリケーションを選択しなかった場合、Apache Solr のセットアップは不要です。

1. <solr.zip> ファイルを任意のパスに展開します。
「Apache Solr」セットアップツールは次のURLよりライセンスキーを入力してダウンロードできます。

プロダクトファイルダウンロード

i コラム

本書では、以下のパスを指定します。

「C:/solr」

2. 以上でセットアップは完了です。
より細かい設定を参照したい場合は「[Solr管理者ガイド](#)」を参照してください。

Apache Solr の起動、Admin画面へ接続、停止

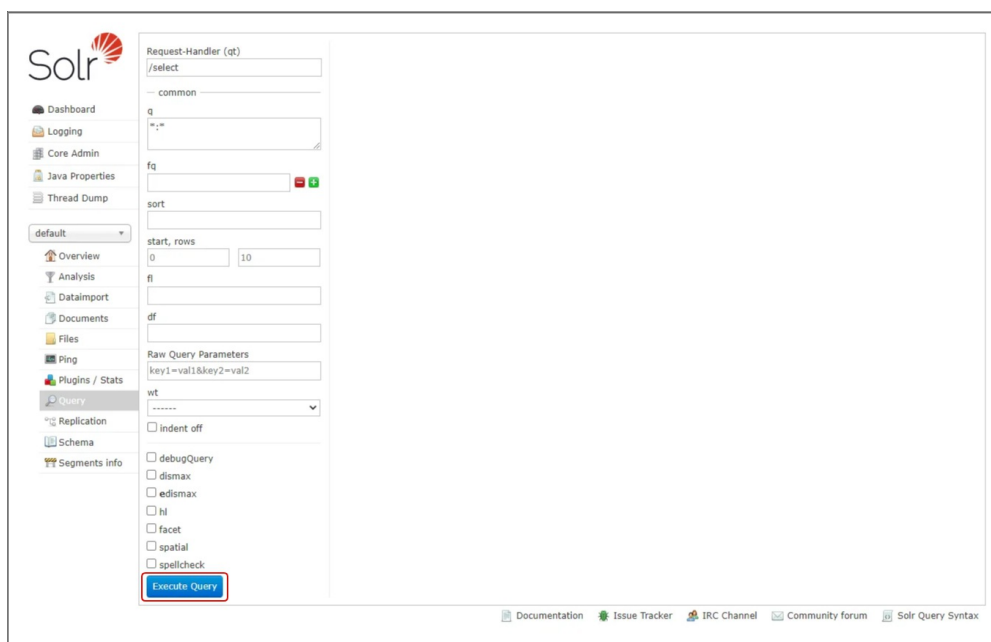
1. サーバの起動

```
C:\solr\bin> solr.cmd start
```

2. Solr管理画面へ接続し、「Execute Query」ボタンが正常に動作することを確認します。

```
http://<HOST>:<PORT>/solr/#/
```

※下記の画面はイメージです。



3. サーバの停止

```
C:\solr\bin> solr.cmd stop -p <PORT>
```

次は、「[デプロイ](#)」へ進みます。

デプロイ

WARファイルのデプロイ

1. IM-Juggling で作成した WAR ファイルを webapps ディレクトリに直接配置します。
WAR ファイルを以下のディレクトリ配下に配置します。
「C:/Resin/webapps」



注意

WARファイルのデプロイには、Resin が停止している必要があります。

2. Apache Cassandra、Resin の順に起動します。



コラム

Apache Cassandra の起動

<C:/apache-cassandra-1.1.12/bin/cassandra.bat> をダブルクリックします。

既に起動していた場合は、再起動を行ってください。

起動時に立ち上がったコマンドプロンプト上において「Ctrl」+「C」コマンドを実行します。

プロセスが停止したら、起動を行ってください。



コラム

Resin の起動

<C:/Resin/resin.exe> ファイルをダブルクリックします。

コンソールに以下のメッセージが表示されたら起動は完了です。

```
[12-07-02 18:30:00.000] {main} http listening to *:8080
[12-07-02 18:30:00.000] {main}
[12-07-02 18:30:00.000] {main} Resin[id=app-0] started in 55480ms
```

既に起動していた場合は、再起動を行ってください。

起動時に立ち上がった起動停止画面にて「Stop」をクリックします。

停止した場合はコンソールに以下のメッセージが表示されます。

```
{resin-shutdown} Shutdown Resin reason: OK
```

Resin が停止したら、起動停止画面にて「Start」をクリックします。

コンソールに起動時と同様のメッセージが表示されたら、再起動は完了です。

静的ファイルの配置

IM-Juggling から取得した「静的ファイル」を Web Server のドキュメントルートに解凍します。

静的ファイルの出力は、[静的ファイルの出力](#)を参照してください。

次は、「[テナント環境セットアップ](#)」へ進みます。

テナント環境セットアップ

- ブラウザを利用して、テナント環境セットアップを行います。
ブラウザより 以下のURLへアクセスします。

システム管理者ログイン画面： http://<HOST>:<PORT>/<CONTEXT_PATH>/system/login

※ Web ServerとWeb Application Server をローカル環境にセットアップ、かつ、本書の設定値に合わせてセットアップした場合、次のアドレスで接続できます。

システム管理者ログイン画面： <http://localhost/imart/system/login>



コラム

コンテキストパスはデプロイ時に設定したものを指定します。

Resin の場合、デプロイ時のWARファイル名です。

[デプロイ](#) を参照してください。

Resin 以外の Web Application Server については、デプロイ時に指定した「コンテキスト・ルート」です。

- intra-mart Accel Platform のテナント環境セットアップ手順は次の通りです。
本書では、必須項目のみ入力します。以下に記載のない項目は、入力する必要はありません。
- 1. はじめに
次へをクリックします。
- 2. システム管理者情報
ユーザコード「system」
- 3. テナント情報
テナントID「default」
- 4. テナント環境情報
すべて未入力次へ
- 5. パスワード保存方式設定
パスワード保存方式「暗号化」
- 6. テナント管理者情報
ユーザコード「tenant」
- 7. Apache Solr 接続情報
初期値のまま次へ
- 8. Apache Cassandra 接続情報
初期値のまま次へ
- 9. 登録
各ステップの設定が完了したら、登録をクリックします。
- 下記の画面が表示されたら、セットアップは完了です。

セットアップ結果				
テナント (default) を作成し、作業テナントに設定しました。				
処理結果	モジュールID	インポート種別	インポート対象名	エラーメッセージ
✓	im_javamail	EXTENSION	jp.co.intra_mart.system.mail.template.migration.MailTemplateMigrator	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_tenant_common/im_tenant_common-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_authz/im_authz-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_menu/im_menu-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DDL	products/import/basic/im_tenant/im_password_history/im_password_history-ddl.sql	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-role.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-role_en.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-role_ja.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_calendar/im_calendar-role_zh_CN.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-role.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-role_en.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-role_ja.xml	-
✓	im_tenant	DML	products/import/basic/im_tenant/im_admin/im_admin-role_zh_CN.xml	-



コラム

テナント環境・サンプルデータセットアップの途中で失敗した場合

接続先のデータベースのデータを削除し、再度テナント環境セットアップを行ってください。

データの削除については [アンインストール](#) を参照してください。

データの削除後、Resin を起動し、再度テナント環境セットアップを行ってください。

Apache Cassandra をご利用されている場合は、合わせてデータの削除および起動を行ってください。

セットアップのログについては「[テナント環境セットアップ・サンプルデータセットアップに失敗した場合](#)」を参照してください。

- この章では intra-mart Accel Platform に関わる全てのファイル、データのアンインストールを行います。ミドルウェア製品等のアンインストールについては、同製品のマニュアルをご確認ください。



注意

バーチャルテナントによる複数テナント で作成した任意のテナントを削除する場合は、[システム管理者操作ガイド](#) - 「テナント情報を更新する」を参照してください。

項目

- アプリケーションの削除
- Storage領域の削除
- ミドルウェア製品の削除

アプリケーションの削除

1. Resin 上に展開されている以下のファイル・ディレクトリを削除します。

<%RESIN_HOME%/resin-data> 配下のファイル・ディレクトリ

<%RESIN_HOME%/webapps> 配下に配置したWARファイル

<%RESIN_HOME%/webapps> 配下のディレクトリ



注意

Resinが停止している必要があります。
停止方法については [Web Application Server](#) を参照してください。

Storage領域の削除

1. <%STORAGE_PATH%> 配下のファイル・ディレクトリを削除します。
2. <%PUBLIC_STORAGE_PATH%> 配下のファイル・ディレクトリを削除します。

ミドルウェア製品の削除

- Resin
<%RESIN_HOME%> ディレクトリを削除します。
- データベース
ご利用の データベース のマニュアルを参照してください。
- Web Server
ご利用の Web Server のマニュアルを参照してください。



注意

静的ファイルを配置している <%WEB_PATH%> ディレクトリ配下のファイル・ディレクトリを削除します。

- Apache Cassandra
Apache Cassandra をセットアップしたディレクトリを削除します。
- Apache Solr
Apache Solr を動作している Web Application Server (Jetty 、 Resin 、 Tomcat) をセットアップしたディレクトリを削除します。

次は、「[はじめに](#)」へ進みます。